

事業 目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤 社会をリ ードする 人材の育 成	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	①言語活用力・ICT活用力 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 その他		校内外成果発表会の実施	校内外成果発表会の発表本数	校内670 校外53	校内650 校外50	校内665 校外80	校内 ●課題研究 中間発表 101 ●課題研究 最終発表 101 ●情報Ⅰでの発表 80（320人） ●即興型英語ディベート7月練習会 12（15人） 11月練習会 4（7人） ●3年英語表現スピーチ発表 351人 ●学内留学での発表 16（80人） 校外 ●大阪サイエンスディ1部 20（4人） 2部 2（7人） ●科学の甲子園大阪大会 1（6人） ●即興型英語ディベート関西交流大会 6（10人） ●即興型英語ディベート全国大会 4（3人） ●GLHS合同発表会 1（2人） ●日本動物学会 ポスター発表 3（3人） ●日本生態学会 高校生セッション 3（6人） ●日本天文学会 シュニアセッション 30（10人） ●台北国際青少年科学フォーラム 2（4人） ●京大ポスターセッション 1（4人） ●近畿サイエンスディ 1（4人） ●京都大学ポスターセッション 5（4人） ●Japan Geoscience Union Meeting 1（1人）	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	79.0%	90.0%	94.3%	学内留学アンケート「人前で発表することに抵抗が少なくなりましたか」 肯定的回答率 ⇒ 94.3%	A	継続	校内外成果発表会の発表本数について、特に、学校外における発表本数が昨年度実績や目標値を大幅に上回っていることに加え、アンケートにおいてもその成果が確認できており、高く評価できる。一方、即興型英語ディベートデモンストレーションについて、肯定的評価が昨年度実績を上回っているものの、目標値には届いておらず、工夫や改善を期待したい。		AA
			②英語運用能力	継続	学内留学講座の実施	参加者数	80人	80人	80人	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	87.5%	95.0%	94.3%	学内留学アンケート「人前で発表することに抵抗が少なくなりましたか」及び「英語によるコミュニケーション能力を高めたいと思うようになった」の肯定的回答率の平均 ⇒ 94.3%	B	継続			
			③英語運用能力	継続	英語による講演・大学院留学生との交流会実施	参加者数	320人	320人	320人	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	62.0%	95.0%	73.2%	即興型英語ディベートデモンストレーション 肯定的回答率 ⇒ 73.2%	C	再編			
	Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 その他		異文化理解教育の実施	海外の高校や大学等へ訪問した人数と受け入れた人数の合計（一日交流は含まない）	12人	10人	27人	●受け入れ 長期 2名（チェコ 1名 5ヶ月、ドイツ 1名 2か月） 短期 20名（デンマーク 1週間） 5名（アメリカ・シアトル 5日間）	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	97.8%	95.0%	100.0%	留学生1人を実施した北野高校での異文化交流に対する肯定的回答率 ⇒ 100% 1年生対象の留学生の受け入れに対する肯定的回答率 ⇒ 「留学生との関わりで、お互い学ぶことがあった」の肯定的回答率 %	A	継続	海外の生徒の受け入れ人数が、昨年度実績及び目標値を大幅に上回ったことに加え、受け入れに対する生徒の肯定的な回答が100%であったことから、校内における異文化理解の促進に大きく寄与した点が高く評価できる。		AA
			⑤共感性・協調性	継続	チームビルディング講座の実施	参加者数	320人	320人	320人	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	91.4%	95.0%	95.0%	チームビルディング講座における生徒の肯定的回答率⇒95%	B	継続			
			⑥バランスのとれた豊かな人間性の育成	継続	部活動の充実	部活動の加入率	112.5%	100.0%	123.6%	A	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	90.5%	95.0%	91.9%	クラブ活動はあなたにとってプラスになっていますか。 「はい」 %	B	継続			
	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦高い志を育む 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 その他		各界リーダーによる講演会や指導の実施	講演の回数及び講座指導回数	講演23回 指導298回	講演20回 指導250回	講演25回 指導246回	●知的世界への冒険 講演7回 指導7回 ●学部学科ガイダンス 講演11回 指導11回 ●キャリアガイダンス 講演6回 ●即興型英語ディベート講演1回 指導2回 ●課題研究講演会 講演1回 ●課題研究中間発表会 指導101回 ●課題研究最終発表会 指導105回 ●課題研究各講座での指導 16回 ●生物の授業の一環としての指導 3回（電気泳動、遺伝子組み換え、生態学講演）	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	94.5%	95.0%	97.8%	知的世界への冒険 98.6% キャリアPHR 98.3% 学部学科ガイダンス 96.5%	A	継続	卒業生を活用した講演会を数多く実施することにより、高い志を育んでいることは評価できる。また、大学におけるセミナー等への参加人数も高い水準を維持している。今後も、卒業生や外部機関と連携しながら、生徒の高い志の育成に努めてもらいたい。		AA
			⑧キャリア教育の推進	継続	若手研究者による学部・学科ガイダンスの実施 社会人による職業ガイダンスの実施	生徒の参加率	100.0%	100.0%	100.0%	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	96.1%	95.0%	97.4%	キャリアPHR 98.3% 学部学科ガイダンス 96.5%	A	継続			
			⑨高大連携の推進	継続	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加した生徒数	208人	160人	209人	B	当該アンケートにおける生徒の肯定回答率	93.0%	95.0%	95.5%	京大キャンパスガイド 95.5%	B	継続			
	Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑩授業力向上 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 その他		校内外の授業見学・研究協議の実施	授業見学・研究協議をした教員の割合	94.9%	95.0%	96.6%	今年度1度でも他の先生の授業を見に行った、または他の先生に授業を見に来てもらった先生の人数 回答者59名のうち57名	—	当該アンケートによる生徒の肯定回答率	88.7%	95.0%	96.2%	学校教育自己診断（生徒対象） 「授業は、興味深く、満足できるものである」の肯定的回答率 ⇒96.2%	A	継続	他県からの学校訪問受け入れを含め、公開研究授業等において指導力向上の取組みを積極的に行っており、来年度以降もさらなる活性化を期待する。		A
			⑪若手教員の指導力向上	継続	他校と連携した研修講座の実施	指導力向上研修の実施回数	18回	20回	53回	A	当該アンケートにおける参加教員の肯定回答率	100.0%	95.0%	100.0%	聞き取り調査 100%	A	継続			
			⑫授業力・指導力の向上	継続	保護者を含む外部への授業公開	保護者を含む外部からの見学者数	763人	800人	808人	B	当該アンケートにおける参加者の肯定回答率	99.9%	95.0%	99.9%	保護者の公開授業アンケートにおける肯定的回答率 ⇒ 6月 99.9% 11月 99.9%	A	継続			
Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	GLHS校以外の近隣校との合同課題研究発表会の相互見学の実施	GLHS校以外の近隣校との合同課題研究発表会の相互見学の回数	0回	3回	1回	春日丘高等学校 教員 1名	C	参加満足度（4段階）	4.0	3.5	4.0	当該アンケートにおける参加者の満足度 ⇒4.0	B	再編	GLHS指定校以外の教員との公開研究授業の相互参加回数の増加は評価できるが、課題研究発表会の相互見学が1回にとどまっている。府立高校をリードする学校として、探究活動の深化及び発信・普及に努めてもらいたい。		A	
		⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	GLHS校以外の教員との授業互見と、研究協議の実施	GLHS校以外の教員との授業互見と、研究協議の実施回数	9回	10回	32回	本校にて 公開研究授業実施 28回 （野崎×2、北郷×1、松田×2、武田×2、田路×1、徳丸×2、岡本×1、福島×2、寺尾×1、浜口×1、メアリー×1、 難波×2、山下×1、後藤幹×1、山本美×1、保田×1、ジャック×1、仁科×1、華保×3、鈴江×1） 他校へ 公開研究授業参加 4回（田路×1、保田×2、福本×1）	A	参加満足度（4段階）	4.0	3.5	4.0	当該アンケートにおける参加者の満足度 ⇒4.0	A				継続

府立北野高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記					学力調査における学力の伸長に関して、2年から3年について、大幅に改善している。どのような要因がこの結果につながったのか分析し、ぜひとも、今後へ活かしていただきたい。 大学入学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合を維持しており、高い水準で推移している。また、得点率の平均においては、前年度実績を下回ったものの、目標は上回っており、十分に評価できる。	AAA		
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	98.10%	95.0%	98.00%		B			継続	
			⑰大学入学共通テストの結果	6教科8科目受験者における得点率の平均	82.90%	80.0%	79.75%		B			継続	
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学会や大学での研究会・研究紀要等での発表数	8件	10件	9件	日本動物学会ポスター発表 3（3人） 日本生態学会発表 3（6人） 日本天文学会プレゼンテーション・ポスター発表 3（10人）	C	継続	課題研究活動については、学会のポスター発表をはじめ、全国規模の大会への参加を維持できている。探究活動の充実に向けて取り組んでいることは大いに評価できる。次年度以降も引き続き努めていただきたい。	B	
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数（「国レベル」には全国大会出場者を含む）①府レベル②国レベル	①10人 ②9人	①5人 ②10人	①11人 ②11人	①科学の甲子園 1（6人） 6位入賞 大阪・京都マス・インターセクション 1（1人）奨励賞 近畿サイエンスデー 1（4人） 優秀賞 ②化学グランプリ 1（1人）2次予選突破 物理チャレンジ 1（1人） 地学オリンピック 1（1人） 原子力科学オリンピック 1（1人） 全国高等学校模擬国連大会 3（6人） JpGU 2025 1（1人） 優秀賞	B	継続			
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	39人	50人	41人		B	継続	CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数は昨年度と同水準だった。英語運用能力の向上に向け、さらなる取組みを求める。	—	
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	225人	200人	214人		B	継続	進学実績について、すべての項目で目標値を上回っている。特に、国公立大学現役進学者数においては、昨年度に引き続き、前年度実績を上回り、実績をあげている。引き続き、これら高い水準を維持できるよう、研鑽を積んでいただきたい。	AAA	
			㉒進学実績	難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者数	173人	150人	154人	東京大学 7人 京都大学 87人 大阪大学 60人	B	継続			
			㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	183人	180人	213人		A	継続			
			㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1人	1人	3人		A	継続			
		総合評価			国際交流・卒業生による講演会・思考力を重視した授業などを通じて、学力だけでなく非認知能力も高い生徒を育てることができており大変評価できる。こうした取組みは公開授業等を通じて広く公開している。生徒の知見をさらに広げるため、世の中で活躍している方々の存在をどのように知らせるかが重要であり、今後は、大学進学後のキャリア形成や博士人材への意識づけなど、より長期的な視点を取り入れることで、学校の価値がさらに高まると期待される。							AA	

自己評価の基準	A・・・計画以上	評価審議会 評価の基準	AAA ……きわめて高い成果をあげている
	B・・・おおむね計画通り		AA ……高い成果をあげている
	C・・・計画以下		A ……成果をあげている B ……取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ……取組の見直しが必要である

事業 目的	大項目		小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価	
																			コメント	評価
知識基盤 社会をリ ードする 人材の育 成	学校独自の 取組	Ⅰ．確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） - 言語活用能力 - ICT活用能力 - 読解力リテラシー - 科学的リテラシー - 英語運用能力 - その他	①言語活用能力・ICT活用能力	継続	課題研究成果発表会の実施（豊高プレゼンテーション）	校内成果発表会の発表件数	理科口頭発表53本 文科口頭発表32本 能勢分校口頭発表7本 1年97本	理科口頭発表45本 文科口頭発表35本 能勢分校口頭発表3本 1年90本	理科口頭発表47本 文科口頭発表42本 能勢分校口頭発表10本 1年92本	課題研究中間発表及び課題研究発表会における発表班数	A	プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合	90%	90%	93%	豊高プレゼンテーションの終了後にアンケートを実施	A	継続	校内において課題研究が積極的に推進されており、生徒の資質・能力の向上に寄与していることは評価できる。また、各種コンテスト等への参加人数も、昨年度実績や目標値を上回っており評価できる。	B
			②英語運用能力 科学的リテラシー 言語活用能力	継続	各種コンテスト及び英語即興型ディベート活動への積極的参加	①全国大会参加数 ②府内及び近畿（西日本）等地方大会参加数 ③ディベート活動参加回数	①15回 ②10回 ③237回	①10回 ②5回 ③170回	①112回 ②12回 ③255回	①SSH生徒研究発表会(1組)、酪農学園大学サイエンスファーム2025(2組)、全国高校生フォーラム(1組)、マスフェスタ(4組)、サイテックリサーチフォーラム(2組)、リサーチフェスタ(2組) ②大阪サイエンスステイ第一部(8組)、第二部(3組)、科学の甲子園大阪府大会(1組) ③ディベートセミナー（6×41＝246回）、ディベート体験9回	A	英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合	93%	90%	89%	即興型ディベート活動終了後にアンケート実施	B	継続		
			③英語運用能力	継続	英語リスニングセミナー	講習参加者数	433名	400名	450名	土曜講習(英語)参加者 1年：76名 2年：184名 3年：190名	A	英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合	90%	90%	81%	講習終了後にアンケートを実施	C	再編		
		Ⅱ．豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） - 違いを認め共に生きる力 - 共感性 - 協調性 - 紛争を解決する力 - 健康・体力 - その他	④協調性・共感性	再編	豊音祭・二科展	参加者数	1年生360名 2年生360名	1年生360名 2年生360名	720名	2月6日(金)実施	B	参加を通して、文化的な感性が高まったと回答した参加生徒の割合	－	90%	96%	活動終了後にアンケートを実施	A	継続	海外との交流に積極的に取り組んでおり、異文化理解や国際的視野を広げる実践的な学びの機会が豊富に用意されている。これらの取り組みを通じて、生徒は多様な価値観に触れながら、社会で求められる資質・能力を着実に身につけている。	A
			⑤違いを認め 共に生きる力	継続	海外フィールドワークの実施	参加者数	96名	100名	162名	英国語学研修41名 GLHS米国研修3名 韓国招待発表4名 国内留学P26名 シンガポールパートナー校来校・交流40名 3月SSHシンガポール研修(27名) 3月SGHNベトナム研修(21名)	A	異文化について理解を深めることができたと回答した参加生徒の割合	97%	95%	98%	プログラム終了後にアンケート実施	A	継続		
			⑥違いを認め 共に生きる力	新規	生徒対象人権講演会	参加者数	－	1年生360名 2年生360名	1年生360名 2年生360名	1年生11月20日(木) 2年生11月13日(木)	B	命の大切さや社会のルールについて理解を深めることができたとして回答した参加生徒の割合	－	90%	89%	プログラム終了後にアンケート実施	B	継続		
		Ⅲ．高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） - 規範意識 - 高い志 - その他	⑦高い志をはぐくむ 規範意識	継続	地域交流活動 ボランティア活動の推進	活動人数	2年生全員	2年生全員	1年生360名 2年生360名	2年、1年ともに実施	A	ボランティア活動に参加した生徒のループリック評価	90%	90%	97%	「志学」に対するアンケートでの肯定的回答率	A	継続	地域との交流活動が盛んであり、地域連携事業やボランティア活動を通じて、生徒の社会貢献に対する意識が高く培われている点が評価できる。	A
			⑧高い志をはぐくむ	再編	高大連携	①イノベーションプログラム(10回)参加者数 ②留学生交流会参加者数	①－ ②1年生360名	①100名 ②1年生360名	①201名 ②1年生360名	①全11回。イノベーションチーム20名を含む参加数 ②1年生360名	A	授業以外の体験ができた・学びに対する意欲が増したと回答した参加生徒の割合	92%	90%	100%	プログラム終了後にアンケート実施	A	再編		
			⑨高い志をはぐくむ	継続	各界で活躍している方による講演会の実施	講演会の回数	132回	80回	142回	京大講演会1回(68名) 京大見学会1回(58名) 阪大講演会1回(360名) 課題研究・グループ別講演89回 キャリア講演会34回 イノベーションチーム4回 探Qガイダンス12回	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	97%	95%	96%	プログラム終了後にアンケート実施	A	再編		
		Ⅳ．教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） - 授業力向上 - 教材開発 - その他	⑩教科指導力の向上	継続	①教科の垣根を超えた相互の授業見学 ②授業改善に向けた教員研修の実施	①研究授業の実施回数 ②校内での教員研修の回数	①78回 ②12回	①60回 ②10回	①103回 ②5回	①授業公開9回 相互授業見学94回 ②教科別研修5回	A	学校教育自己診断における項目の肯定的評価の割合	①94% ②94% ③94%	①90% ②90% ③90%	①92% ②92% ③93%	学校教育自己診断(生徒) ①授業内容は自分の学習や発達に役立っている ②教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある ③授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある	A	再編	相互授業見学の回数が着実に増加しており、学校全体での教員の指導力向上への取組みが生徒の授業への高い満足度の維持にもつながっていると評価できる。	A
			⑪課題研究力向上	継続	課題研究における研究内容の質的向上を検討	・課題研究に関わる会議(SSH・課題研究委員会等)を定期的に開催し、試行・検証・検討を行う。	62回	50回	50回	①課題研究委員会6回 ②課題研究Ⅱ担当者会議14回 ③SSH研究開発委員会24回 ④SSHⅣ期申請チーム会議6回	B	ループリック作成を通じて指導力が向上したと答える教員の割合	100%	100%	100%	課題研究委員会に参加した教員アンケートの肯定的回答率	B	再編		
		Ⅴ．取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑫GLHS校以外の生徒の 資質向上	継続	①課題研究中間発表、豊高プレゼン等を公開 ②他校科学系部活動との交流 ③地域・小中学校との交流	①課題研究中間発表、豊高プレゼン等を公開 ②他校科学系部活動との交流回数 ③小中学生参加人数	①3校16名 ②1回 ③90名	①3校20名 ②1回 ③90名	①6校50名 ②2回 ③72名	①課題研究中間発表会（千里高校生徒1名） 課題研究発表会（能勢分校、高津高校、東高校、刀根山高校、箕面高校から参加） ②里山一斉調査（刀根山高校）、中山池ワークショップ（刀根山高校、枚方高校） ③サイエンスキッズ（小学生23名）、サイエンスチャレンジ（中学生13名）、SSひろめ隊（小学生36名）	A	参加満足度（4段階）	3.5	3.5	3.7	参加生徒にアンケートを実施	A	継続	他校や地域への課題研究の成果の普及に努めており、他校の教員への指導力向上研修をさらに活性化する等、今後もGLHSの持つ知見を共有する取組みを推進していただきたい。	A
			⑬GLHS校以外の教員の 指導力向上	継続	教員研修の実施	教員研修・研究授業への他校からの参加教員数	13名	30名	10名	公開研究授業3名 課題研究発表会にて教員研修会参加7名	C	参加満足度（4段階）	3.3	3.5	3.7	参加してくださった教員にアンケートを実施	A	継続		

府立豊中高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑭10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記						学力調査における学力の伸長に関して、昨年度落ち込んだところから、令和6年度並みに戻している。この1年の取組みが形になった。 大学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合が増加した一方、得点率80%以上の者の割合は、前年度実績及び目標を下回った。問題の難化が取りざたされたところではあるが、要因の分析を行い、今後の学習の指導につなげていただきたい。	AA	
			⑮大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	83%	80%	88%	309名（文科121名 理科188名） 受験者数 344名 在籍者数 350名	A	継続			
			⑯大学入学共通テストの結果	6教科8科目受験者における得点率80%以上の者の割合	25%	20%	14%	44名／309名	C	充実			
		Ⅶ. 課題研究活動	⑰課題研究活動	「本校の課題研究は広義の学力育成に役に立っている」の肯定的評価	87%	80%	90.2%	1, 2学年 720名にアンケート実施	A	継続	課題研究活動に対する肯定的意見が90%を超えたことは大いに評価でき、探究活動が学校の中核になる取組みであるというメッセージが生徒にしっかり届いていると言える。一方で、コンクール・コンテスト等の成果につながらなかった要因については分析が必要だろう。	C	
			⑱コンクール・コンテスト等の成果	大阪府・全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞グループ数	10グループ	10グループ	1グループ	科学の甲子園 6位入賞	C	充実			
		Ⅷ. 英語運用能力	⑲英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	26名	8名	26名		A	継続	目標値を上回る結果となっている。昨年度実績では、CEFR B1レベル相当の英語力を有する生徒の割合も高いため、さらに力を伸ばす取組みを継続してもらいたい。	—	
		Ⅸ. 進学実績	⑳スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	111名	110名	100名	北海道大学:1名(0) 東北大学:4名(2) 筑波大学:0名(0) 宇都宮大学:0名(0) 埼玉大学:0名(0) 東京大学:0名(0) 東京医科歯科大学:0名(0) 東京工業大学:0名(0) 金沢大学:0名(0) 福井大学:0名(0) 静岡大学:2名(0) 名古屋大学:2名(2) 京都大学:4名(1) 大阪大学:47名(36) 神戸大学:23名(18) 岡山大学:4名(3) 広島大学:7名(4) 九州大学:1名(0) 慶應義塾大学:2名(2) 東京理科大学:0名(0) 早稲田大学:3名(3) ()は現役数	C	継続	進学実績について、自己評価を「C」としているとおり、すべての項目で目標値に届かなかった。ただ、国公立大学については、合格者は前年度実績を上回っているとともに、合格しても進学しなかった者が12名いるとのことであるので、志望校への進学を強く希望することの表れと思われる。学びへの探究心が育っていると感じられる。	AA	
			㉑進学実績	京都大学・大阪大学・神戸大学・大阪公立大学の合格者数	120名	120名	109名	京都大学:4名 大阪大学:47名 神戸大学:24名 大阪公立大学:34名	C	充実			
			㉒国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	130名	140名	126名	合格者138名	C	継続			
			㉓海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	0名		C	継続			
		総合評価			地域連携や海外交流などを通じて社会貢献や国際理解を深める取組みも充実しており、幅広い価値観に触れながら社会で求められる資質・能力を着実に身につけている点は高く評価できる。また、課題研究の入賞数が目標に達しなかったものの、イノベーションチームの設置や全教員担当制の導入など意欲的な取組みにより生徒の能力向上に寄与している。今後は、教員の指導力向上に向けた研修の充実などにより、学校としてのさらなる発展を期待する。								AA

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA ……きわめて高い成果をあげている AA ……高い成果をあげている A ……成果をあげている B ……取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ……取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業 目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤 社会をリ ードする 人材の育 成	学校 独自の 取組	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） - 言語活用力 - ICT活用力 - 読解力リテラシー - 科学的リテラシー - 英語運用能力 - その他	①言語活用力	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	6回 ／講座	6回 ／講座	10回 ／講座	目標を達成した	A	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現力が高まった	90%	80%	90%	目標を上回った	A	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施回数が増加していることに加え、英語の表現力が高まったという生徒の肯定的評価も増加しており、評価できる。	AA
			②言語活用力・ICT活用力	継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	A：「保健」の授業でのプレゼンテーション B：「1年行事委員会活動」での生徒間のプレゼンテーション	A：1回 ／生徒 B：36回	A：1回 ／生徒 B：10回	A：1回 ／生徒 B：45回	目標を達成した	A	【アンケートによる生徒の評価】 A：授業を通じて自らの成長を実感できた B：1年行事委員会に参加して充実した活動ができた	A： 94% B：98%	90%	A： 92% B：98%	目標を上回った	A	継続		
			③基礎学力の向上	再編	進路目標達成のための基礎的教養や知識を高める図書の充実	図書館の開館日数の確保	196日	180日	192日	目標を達成した	A	A：購読意欲を高める刊行物の発行 B：1,2年生生徒1人当たりの読書冊数	A： — B：13.2冊 /1人	A：年間6回 B：10冊 /1人	A：8回 B：2.5冊 （図書館貸出のみ）	A：目標を上回った B：目標を下回った	B	再編		
		Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく 生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） - 違いを認め共に生きる力 - 共感性 - 協調性 - 紛争を解決する力 - 健康・体力 - その他	④共感性・違いを認め共に生きる力	継続	生徒の人権委員会を中心とした多文化共生・多様性受容の取組み	（生徒主体の人権行事に係る）生徒人権委員会の実施回数	3年：6回 2年：8回 1年：5回	各学年5回	3年：12回 2年：14回 1年：16回	3年「同和問題と人権を学ぶ意義」 2年「国際平和（主に核軍縮について）」 1年「SNS講習会」	A	【アンケートによる生徒の評価】 さまざまな取組みを通して、深く自国や自分自身を見つめ直し、広い視野をもって積極的に他者に関わろうとする姿勢をはぐくむことができた	88%	90%	96%	3年：98% 2年：97.4% 1年：93.7%	A	継続	人権学習をはじめとした校内の様々な生徒主体の行事等の取組みを実施していることは特筆すべきことであり、茨木高校の校風を体現しているため評価できる。	AA
			⑤課題発見力・紛争を解決する力	継続	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	実施回数	69回	50回	70回	生徒議会：8回 その他の委員会：62回	A	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事の取組みは充実したものに なっている	96%	90%	95.2%	体育祭 96.2% 文化祭94.1%	A	継続		
			⑥健康・体力をはぐくむ	継続	リーダー研修Ⅲ（クラブサポート事業）の実施	A：実施回数 B：参加クラブ数	A：5回 B：38	A：5回 B：30	A：8回 B：38	熱中症予防 トレーニング講習 テーピング講習	A	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	97%	90%	98%	目標を上回った	A	継続		
		Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路 実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） - 規範意識 - 高い志 - その他	⑦高い志・規範意識をはぐくむ	再編	リーダー研修Ⅰ・Ⅱ（リーダーとしての資質の獲得）の実施	実施回数	12回	10回	14回	リーダー研修Ⅰ・Ⅱ	A	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	98%	90%	98%	目標を上回った	A	継続	学問発見講座・卒業生講座の実施について、それぞれ高い生徒の満足度を獲得しており、生徒の高い志を育むことに寄与している。引き続き、卒業生も活用しながら様々な取組みを効果的に進めてもらいたい。	AA
			⑧高い志・共生力をはぐくむ	継続	ボランティア活動の推進	参加した地域活動等の種類	35	30	23	ボランティア行事参加 校内外各種行事の企画運営等	—	参加する機会の提供回数	35回	20回	23回	目標を上回った	A	継続		
			⑨学びの意味と自らの将来について深く考える	継続	学問発見講座・卒業生講座の実施	実施講座数・実施回数	24講座 ／年2回	20講座 ／年2回	26講座 ／年2回	学問発見講座：15講座 卒業生講座：11講座	A	【アンケートによる生徒の評価】 「学問発見講座・卒業生講座」は、自分にとって満足できる内容であった。	95%	90%	学問発見講座97.3% 卒業生講座96.8%	97.1%	A	継続		
		Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） - 授業力向上 - 教材開発 - その他	⑩最先端の学びの研究	継続	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取組み及び教科・科目の研究会を通じて専門知識を深める取組み	A：大学等と連携した取組みの回数 B：教科・科目の研究会等への参加回数	A：45回 B：32回	A：30回 B：30回	A：32回 B：32回	A：学問発見講座11、卒業生講座15、京大研究室訪問12、東京スタディツアー3、スプリングセミナー1、オータムセミナー1 B：大阪府教育センター希望研修、教科研究会、GL公開授業（北野高校・高津高校）への参加等	A	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業を受けて、科目に対する興味・関心がいっそう深まった	85%	85%	87%	目標を上回った	A	継続	全校的に授業力向上に取り組むシステムがあり、教科・科目の研究会等への参加も活発で、生徒の高い評価に結びついている。大学等とも連携し、教員の指導力向上をさらに推進してほしい。	A
			⑪授業力向上	継続	パディシステムを用いた互見授業（グループウェアソフトの利用を含む）の実施	教員1人あたりの実施回数	4.3回／人	3.0回／人	3.2回／人	現在のべ189回 （常勤教員数60人で計算）	A	【管理職授業見学においての生徒の評価】 この先生の授業は教科の理解が深まり、自身の高まりを感じられる	88%	89%	90%	【管理職授業見学においての生徒の評価】 目標の明確化、効果的な教材活用、熱意柔軟性の3項目による評価。 平均 3.6点/ 満点4点	A	継続		
			⑫授業力向上	継続	研究授業及びグループウェアソフトを利用した授業研究・意見交換の実施	実施回数	48回	40回	44回	目標を達成した	A	研究授業及びグループウェアソフトを利用した授業研究・意見交換に参加した教員ののべ人数	106名	100名	108名	互見授業 実参加ののべ人数	A	継続		
	Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する		⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	再編	探究型授業や主体的・対話的な深い学びが散りばめられた授業を地域の生徒へ提示する機会を持つ	実施回数	—	2回	3回	・茨木市立中学校3年生向け高校英語体験授業(7/18) ・茨木市立南中学校2年生向け高校体験授業(1/23) ・課題研究発表会	A	【参加者へのアンケート】高校での授業に関する興味関心の高まり	—	80%	91%	(7/18_高校英語体験授業) 肯定評価率86%(参加者7名中、6名が肯定評価) (1/23_南中学校学校訪問) 肯定評価率96%（参加者23名中、22名が肯定評価）	A	継続	英語教育等、学校の強みを活かし、GLHSの成果を普及する取組みを行っている点が評価できる。今後もGLHS以外の生徒の資質や教員の指導力向上に寄与する活動の継続を期待する。	AA
			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	再編	探究型授業や主体的・対話的な深い学びが散りばめられた授業を地域の中学校の教員や大阪府内外の先生方へ提示する機会を持つ	実施回数	—	2回	3回	・第1回公開授業(6/9、10) ・第2回公開授業(11/10) ・令和7年度 茨木高等学校 授業力向上プロジェクト『実践的英語運用能力の向上につながらる高校英語授業デザインを考える』(1/21)	A	【参加者へのアンケート】教科そのものへの理解の深まりと教授法に関する興味関心の高まり	—	80%	100%	(第1回公開授業) 肯定評価率100%(回答者6名) (第2回公開授業) 肯定評価率100%(回答者2名) (1/21英語科公開授業) 肯定評価率100%（回答者16名）	A	継続		

府立茨木高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価				
										コメント	評価			
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記						学力調査における学力の伸長に関して、2年から3年の経年推移は順調に改善している一方、1年から2年は伸び悩みがある。これらの要因を分析し、1年から2年の改善につなげていただきたい。 大学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合は増加しており、得点率は目標値並みであった。評価できる値ではあるが、さらなる向上をめざされたい。	AAA		
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	90%	90%	92%	293名受験	A	継続				
			⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト 6教科8科目受検者の割合得点率	78%	75%	74.9%	748.9点 文系762.0点 理系742.8点	B	継続				
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	多様なテーマを扱う生徒の課題研究講座数	16講座	20講座	20講座		A	継続	課題研究活動については、研究講座数の目標値を達成したことは評価できる。また、コンクール・コンテスト等の成果についても、目標値は超えたものの伸び悩みがある。積極的な参加を促し、さらなる飛躍を期待したい。	B		
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国essay contest等の入賞者数	9名	5名	6名	全国青少年読書感想文コンクール1名 日本哺乳類学会 5名	A	継続				
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	41名	25名	28名	TOEFLの結果等を用いたGLHS10校共通の指標づくりが必要	A	再編	着実に取組みが進んでいる。年度により実績に増減があるため、英語教育における知見を活かし、さらなる成果を期待する。	—		
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	189名	110名	166名		A	継続	進学実績について、目標値に届かなかったものもあるが、全体としては十分に評価できる値である。特に、小項目㉑及び㉒においては、昨年度に引き続き目標値を大きく超えており、次年度以降に向けては、目標値を高くしてもよいのではないだろうか。	AAA		
			㉒進学実績	東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数	142名	100名	147名		A	継続				
			㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	172名	—	155名		A	継続				
			㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	1名	0名		B	継続				
		総合評価			制度や指定に依存するのではなく、教員と生徒が立場を超えて議論し、学校づくりに主体的に関わる風土によって学校運営がなされている。生徒主体の人権学習や宿泊行事の企画・運営は、実質的な意思決定の経験を伴う点で高く評価できる。また、授業力向上に向けた取組みを自校内にとどめず、他校へ成果を発信している姿勢は、教育の質を社会に還元するものとして意義深い。								AA	

令和7年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立大手前高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

資料2-4

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	①言語活用力・ICT活用力	継続	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表人数	720人	720人	720人	1,2年在籍者全員 7/5 課題研究最終発表会 1/31 課題研究最終発表会	B	①プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合 ②学校教育自己診断（関係項目の向上）	①80% ②生徒95% ③教員92%	①75% ②95% ③95%	①74% ②92% ③96%	①について R7より5段階評価の肯定的回答割合に変更 R6：791/1062＝74%	B	継続	ディベートディスカッションを取り入れた授業や語学研修の実施など、高い英語力の育成に向けた取組みを実施していることに加え、アンケートも目標値を大幅に上回っており、評価できる。	AA
			②基礎学力の向上	継続	勉強合宿・補習・講習の実施	参加者数	計画通り実施	学習活動日 3年講習1、2年勉強合宿	・学習活動日計画通り実施済 ・合宿R8.2実施	3年夏季講習 教科別補習 勉強合宿 2/27～28実施	B	6教科8科目受験者全国平均の125%以上の者の割合	34%	40%	36%		B	充実		
			③英語運用能力	継続	①ディベートおよびディスカッションを取り入れた3年間の英語授業の実施 ②国内外の語学研修の実施	①実施回数 ②研修参加者数 〇〇名	—	①10回／1年生、5回／2年生、3回／3年生 ②研修参加者数120名	①計画通り実施済 ②208名	※R6ネイティブによる4技能向上に向けた授業実践より取組変更	A	①【アンケートによる生徒の評価】ディベートやディスカッションをすることで英語の表現力が高まった ②【アンケートによる参加生徒の評価】研修に参加したことで英語の表現力が高まった	—	①80% ②80%	①92% ②99%	※R6大学入学共通テスト英語平均点に対する比率より成果指標変更	A	継続		
		Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	充実	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施	・学校訪問受入者数 ・海外スタディツアー参加者数	①144人 ②73人	①受入・交流150人 ②派遣63人	①受入・交流145名 ②派遣63名		B	異文化について理解を深めることができた」と回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	参加生徒の満足度アンケートより	A	継続	海外からの学校訪問受入れや海外スタディツアーを通して、生徒の異文化理解を促進することができている。また、生徒の学校生活に対する満足度が高いことも評価できる。	A
			⑤共感性・協調性	継続	①コーラス大会の開催 ②家庭科保育所実習の実施	参加者数	①1075人 ②360人	①1080人 ②360人	①1080名		B	この学校で良かったと回答した生徒の割合	96%	97%	95%	学校教育自己診断「学校生活に満足している」と答えた割合（H31に指標変更）	B	継続		
			⑥健康・体力をはぐくむ	継続	クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活性化	①新入生オリエンテーションや部活発表会の実施 ②水泳訓練の実施 ③マラソン大会の実施	①4/3、427/16～18 ③2/10	①4/3、427/15～17 ③2/10	計画通り実施済	①オリエン、文化部発表会 ③大阪城にて実施	B	クラブ未加入率	—	10%以下	9.2%	※R6 クラブ加入率（11.4%）より指標変更（重複加入者を除いた状況把握のため）	A	継続		
		Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦社会貢献意識を高める	継続	ボランティア活動の推進	ボランティア活動に参加する人数	214人	230人	269人	学校説明会（自治会80人） S探への招待（3年96人） 小中学生勉強会（50人） 校内清掃（20人） その他（23人）	A	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	93%	95%	97%	卒業時のアンケートより	A	継続	卒業生の活用等による進路講演会については昨年度実績及び目標値を大幅に上回っている。様々な職業の在り方を知る機会を与える他、新聞の一面を掲示する等社会への関心を喚起する努力は評価できる。	AA
			⑧規範意識	充実	挨拶の励行 時間を守るための取り組み	全教員による生徒の規範意識醸成への取り組み 全教員による5分前指導 学年主任による登校指導 輪番教員による下校指導	計画通り実施	朝SHRがなくても遅刻が増えない取組（数字目標は右記の通り）	計画通り実施		B	1年あたりの繰遅刻者数	2075人	2000人	1622人	前期末 760人 前年同期 900人	A	継続		
			⑨高い志をはぐくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	110回	110回	156回	集中セミナー 74講座 進路講演会41、阪大研修9講座（2年全員）、京大研修11講座（1年全員）、東京研修7講座、弁護士講演9講座、サイエンス探究講座等5講座	A	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	90%	92%	87%	スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト#28社会貢献意識の項目より	B	継続		
		Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	①研修回数 ②研修参加者数	①15回 ②200人	①15回 ②200人	計画通り実施	模試分析会、 進路研修	B	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	84%	85%	84%	学校教育自己診断「学校は進路に関する情報を積極的に提供している」と答えた割合	B	継続	他府県の視察やSGシステム等により、授業指導力向上の取組みが恒常的に行われており、実績にも結びついている。今後もさらなる発展を期待する。	A
			⑪授業指導力向上	継続	研究授業、授業参観等の実施 授業改善PJ実施（授業相互見学の実施）	①研究授業の回数	51回	50回	66回	教員自主研修4、初任者等3SGシステム54（相互見学） 【視察来校】 東京都立富士高校 原田学園 鹿児島情報高校 【視察訪問】 愛知県立岡崎高校・一宮高校・名大附高	A	授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」二項目の全教員の平均値	3.51	3.55	3.50	後期授業アンケート集計	B	充実		
			⑫課題研究指導力の向上	充実	オール文理による全生徒への課題研究の指導の確立	①担当者会議の実施 ②学校教育自己診断「GLHS取組」肯定率の向上	①定例実施 ②89% ③87%	①定例実施 ②生徒89% ③教員88%	②、③学校教育自己診断表の肯定的回答の割合		B	先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っていると回答した生徒の割合	3.46	3.5	3.42	4段階表示 後期授業アンケート質問5「先生は教科書の他、役に立つ教材やICT機器などを効果的に使っている」の全教員の平均値	B	継続		
	Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	充実	①マスフェスタ（数学全国発表会） ②マスカンパ（地域の中高校生対象） ③プログラミング学習会（地域の中高校生対象）	①マスフェスタ（数学全国発表会） ②マスカンパ（地域の中高校生対象） ③プログラミング学習会（地域の中高校生対象）等の各種企画の参加人数	782人	800人	1,548人	①170人（見学46） ②71人 ③15人 その他：勉強会1000人 S探見学246人	A	参加満足度（4段階）	①3.47 ③3.68	①3.5 ②3.7	①3.6 ②—	①マスフェスタ発表者アンケート	B	継続	プログラミング学習会への地域の中高校生等の参加が顕著に増加しており、GLHSの成果普及の取組みが活発に行われており評価できる。今後も地域や他校をリードする取組みを期待する。	A	
			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	上記催事主催時における引率教員との意見交流会や授業見学等の実施	上記催事主催時における引率教員との意見交流会や授業見学等に参加した人数	125人	130人	58人	マスフェスタ45人、清水谷、夕陽丘教員による見学等 13人	C	アンケートでの肯定的意見の割合	100%	100%	100%	マスフェスタ引率者アンケートより（自由記述アンケートのため、肯定意見抽出）	A			継続

府立大手前高等学校

事業目的	大項目	小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
										コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記					学力調査における学力の伸長に関して、1年から2年、2年から3年ともに改善が見られ、評価できる。大学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合はしっかり維持できており、特に、全国平均の125%以上の割合については、目標には及ばなかったものの、他の9校が実績を落とす中であげているのは目を見張るものがある。	AA		
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	91%	92%	90%	320/357人	B			継続	
			⑰大学入学共通テストの結果	6教科8科目受験者全国平均の125%以上の者の割合	34%	40%	36%	116／320人（36.3%） 文系：58／132人（43.9%） 理系：58／188人（30.9%）	B			充実	
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	全国規模での大会の発表本数（組数）	4組	4組	5組	SSH全国発表会1組3人 全国数学生徒研究発表会「マスフェスタ」4組18人	B	継続	課題研究活動については、全国規模の大会への参加数を伸ばしており、探究活動の充実に向けて取組んでいることは大いに評価できる。全国規模の取組みに積極的に参加し、成果へもつなげていただきたい。	B	
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数 ①府レベル、②全国レベル	①4組 ②3組	①5組 ②4組	①1組 ②2組	①大阪府学生科学賞 教育委員会賞 ②日本生物教育学会 奨励賞 2025年慶北教育庁 Miracle@Science	C	充実			
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	44%	50%	48%	171／357人	B	継続	目標値には達していないが、昨年度より実績は伸びている。引き続き、英語運用能力向上のための方策を検討いただきたい。	—	
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	128人	130人	87人		C	充実	進学実績について、自己評価「C」や次年度の取組方針「充実」とするものがあり、課題感を持って実績を捉えていると感じる。今後へつなげるためにも、その課題感を学校全体で共有するとともに、要因の分析や対応策の検討等を行っていただきたい。	A	
			㉒進学実績	国公立大大学（現浪）進学率 （対象年の現浪国公立大学合格者数/対象年3年在籍数（平均して動向を把握）を国公立大大学（現浪）進学率として設定）	64%	65%	60%		C	充実			
			㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	141人	145人	135人		B	充実			
			㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0人	2人	1人		B	継続			
		総合評価			集中セミナーをはじめ社会・職業への関心を高める取組み、ディベートディスカッションを取り入れた英語授業など、多様な資質向上の取組みは評価できる。課題研究について、知識の収集に留まらず、思索による深化へと質的向上を図るとともに、スケジュールを前倒することが今後どのような成果を生み出すか検証されることを期待したい。								A

令和7年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1府立四條畷高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている
	B・・・おおむね計画通り		AA・・・高い成果をあげている
	C・・・計画以下		A・・・成果をあげている
			B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
			C・・・取組の見直しが必要である

資料2-5

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・基礎運用能力 ・その他	① ・自学自習力 ・言語活用力	継続	学習強化日と英語ディベート講座の実施	自学の取組みにおける生徒の自己評価	学習強化日4回 96%	肯定的評価 90%以上	2回 肯定的評価 96%	① 5月28日(水) 午前 講話「やらされる学習」ではなく「やりたい学習」「やるべき学習」と自学 午後 勉強に効くストレッチ ・ 探究学習「夏のテーマ決め」 ② 7月11日(金) 午前 講義の聴き方とマナー 午後 京都大学訪問	A	英語ディベート講座の取組についての生徒の評価(肯定的意見)	97.40%	90%以上	98.30%	授業内でディベートの基本的な内容を学習したうえで、12月11日外部講師によるディベート講座を実施。クラスを解体、普段一緒に授業を受けていないメンバーで「Restaurants and shops should be punished for wasting food」をテーマに行った。	A	再編	A	探究的な学習について、指導方法が確立していることにより、系統的な指導を学校全体で行うことができおり、生徒が主体的に課題に向き合う姿勢が定着している。
			② ・ICT活用力 ・コミュニケーション力 ・表現力	継続	プレゼンテーション大会の系統的实施	参加人数	①719名 ②354名 ③ 13名 ④718名 ⑤360名 計2164名	2000名	①352名 ②718名 ③36名 ④715名 ⑤354名 計2145名	①探究チャレンジⅢ学びの航海周(3年生発表会) ②探究チャレンジⅡ中間発表会(1・2年生全席) ③ライオンズクラブ英語弁論大会(1年生代表) ④探究チャレンジⅡ成果発表会(1・2年生全席) ⑤如月杯英語辯論大会(1年生全席)	A	各種プレゼン大会に向けての取組に対する生徒の評価(肯定的意見)	96.10%	90%以上	96%	2・3年生は課題研究「探究チャレンジ」において全員がクラス内や発表会の場で発表する機会が設けられている。1年生も英語朗読大会及び「探究チャレンジ」で全員に発表の機会がある。緊張しながらも大舞台の前で発表する経験を通して発表内容や方法について多くのことを学んでいる。	A	継続		
			③ ・科学的リテラシー	継続	「探究ラボ」による科学的リテラシー育成	取組メニューの数	23個	15個	18個 1/16現在	①全体会 ②新入生歓迎会 ③卒ラボ式 ④SSN高校生研究部交流会 ⑤オープンラボ(新高第6月・オープンスクール9月・学校説明会11月・学校説明会12月) ⑥進捗状況発表会(4月・7月・12月・3月) ⑦産総研電池作成実習 ⑧研究班仮所属決めスライド発表 ⑨海外サイエンス研修(タイ研修) ⑩国内サイエンス研修(東京・筑波) ⑪SSN生徒研究発表会研修 ⑫探究チャレンジⅡ中間発表会でのポスターセッション(1年生) ⑬大阪府生徒研究発表会(大阪サイエンスステイ第1部)でのポスターセッション(4班15名) ⑭四條畷市民文化祭でのワークショップ ⑮産業技術総合研究所での研究発表(3班) ⑯大阪府生徒研究発表会(大阪サイエンスステイ第2部)でのオールセッション(3班) ⑰産業技術総合研究所での電池制作実習 ⑱探究チャレンジⅡ成果発表会でのポスターセッション	A	「探究ラボ」の生徒による活動への評価(肯定的意見)	96.2%	90%以上	93.80%	学期ごとの進捗報告会や他校との研究部交流会など、探究ラボでしか味わえないたくさんの貴重な経験(インフォ活動・アットアット活動共に)をすることができ、自分たちの研究に大いに参考になったという声、オープンラボというイベント(特に中学生や保護者や市民向けのものも、全体的に成功したという声)もあり、これらはすべて全体を盛り上げたハートビートになって「前事例」をしっかりとやっていたからだとすることをラボ生たちは体感した。また、外部発表ではその研究分野の知識のある人たちに鋭い質問や、研究の方向性を左右するアドバイスを貰えるので、外部発表で多くの意見を聞いて、研究を極めるのがよいと後輩へ申し送る先輩ラボ生もいた。今後はラボ生以外にも研究のノウハウを伝えていけるようなラボ生内の指導体制を構築している段階である。	A	継続		
	学校独自の取組	Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ 小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④ ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性	継続	海外修学旅行及び海外からの訪問者受入による国際交流	修学旅行全般についての生徒の評価(肯定的意見)	97.20%	90%	98.10%	10/22(水)～10/25(土)に台湾修学旅行を実施。次年度継続訪問に向けた下見を兼ねた3泊4日であった。	A	国際交流に対する生徒の評価(肯定的意見)	95.80%	90%	①92.5% ②95.3%	①松山高級中学との交流 ②B&Sプログラムによる現地大学生との交流 等の交流行事は得るものが多く、満足度は非常に高い。コミュニケーションが上手くとれず、自身の課題克服につなげようとする前向きな姿勢も感じることができる。	A	継続	AA	国内にとどまらず海外との交流・協働にも積極的に取り組んでいる点は大きな特色である。こうした実践を通じて、生徒が多様な価値観に触れ、国際的な視野や課題解決力を養っていることは高く評価できる。
			⑤ ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性	継続	海外(オーストラリア・台湾)との交流及び手紙・メール・ビデオレターの交換(希望者)	参加人数	①12名 ②357名 ③3名 ④728名 ⑤6名 ⑥20名 ⑦20名 ⑧360名 ⑨360名 ⑩20名 ⑪360名 ⑫20名 ⑬20名 合計1597名	500名	①13名 ②360名 ③37名 ④3名 ⑤358名 ⑥6名 ⑦20名 ⑧20名 ⑨20名 ⑩360名 ⑪360名 ⑫20名 ⑬20名 合計1597名	①SSHタイ研修 ②松山高級中学交流会 ③松山高級中学バディ ④GLHS海外研修 ⑤ペンパルプロジェクト ⑥ベトナムボランティア ⑦オーストラリア研修 ⑧グローバル体験プログラム ⑨タイ高校生来校 ⑩年賀状 ⑪ディベート講座 ⑫探究型オンライン国際交流プログラム ⑬グローバル探究研修	A	海外研修参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	94.10%	90%	95%	海外研修は、校内の選考を経て、事前・事後の研修も含めて、異文化を学び他見する構成となっており、各プログラムとも生徒の満足度は非常に高くなっている。研修に参加できなかった生徒に対しては、交流校が本校を訪問した際のバディを優先的に充てるなどの工夫により全体の評価が高まっている。	A	継続		
			⑥ ・協調性 ・健康・体力 ・リーダー育成	継続	充実した部活動の維持	部活動の参加率	99.10%	90%	97.60%	運動部 673人 文化部 381人 合計 1,054人	A	部活動による入賞件数	64件	35件以上	48件	運動部の大会・文化部及び課題研究のコンクール等表彰件数を計上(課題研究は探究ラボで部活動同様の活動)。近畿大会以上の出場は、5部7種類。全国大会は、探究ラボで2種類、専員部・卓球部。	A	継続		
	学校独自の取組	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦ ・進路実現 高い志	継続	飯盛セミナーの実施	講座数と参加人数	8講座 883名	5講座 400名	8講座 980名	「高校生から始めるチーム作り」「銀行の魅力とやりがい」「スキを仕事にした美容オタクの話」「生命産業『農』の魅力」「絵本作家の仕事」「IT業界へようこそ」「剣道から広がる世界観」「グローバル体験プログラム」の8講座を1・2年生が選択受講	A	参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的意見)	97%	90%以上	97.60%	テーマが多岐にわたっており、興味のあるものを選択して受講できるということ、内容も知的好奇心を十分に満たすものであったことから、生徒の満足度は高かった。特に「絵本」「剣道」「グローバル体験」の3講座は100%の満足度であった。	A	継続	A	飯盛セミナーのテーマについて、多岐にわたるものが設定されていることに加え、参加人数が昨年度実績と目標を大幅に上回っており、評価できる。
			⑧ ・進路実現 高い志	継続	大学別研修(東大・京大・阪大・神大)	参加人数	780名	300名	798名	学校独自企画：京大5学部458名、阪大1学部130名、神大4学部142名が訪問。 GLHS企画：京大キャンパスガイド14名、大阪大学ツアー54名。	A	参加生徒によるプログラムに対する評価(肯定的評価)	99%	90%以上	96% 京大(314/327) 京阪神(361/361)	学校独自の研究室訪問は、大学での学びリアルに知ることができ、進路を考える絶好の機会となっている。	A	継続		
			⑨ ・規範意識とリーダーの資質向上	継続	①登校指導の実施 ②アドプト・ロード・プログラム及び地域清掃活動の取組み	①実施日数 ②のべ参加者数	①199日 ②215日 645名	①160日 ②70回 560名	①199日 ②183日 549名	①登校指導朝の挨拶運動 ②アドプトロード(正門前歩道の清掃等)	A	積極的に挨拶していることへの生徒の自己評価(肯定率)	85%	80%以上	85%	コロナ禍の影響を受け一時期低調であった挨拶は、教員や自主的に行われる部活動による朝の挨拶運動により活発になってきた。	A	再編		
	学校独自の取組	Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす 小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩ 教員力の向上	継続	研修の系統的实施及びメンタリングによる教員の相互育成	研修実施回数と参加人数	①257名 ②125名 ③62名 ④52名 ⑤学年別入権研修2/5 3/7 ⑥入権研修総括3/24	年8回 350名	①107名 ②133名 ③52名 ④43名 ⑤65名 ⑥54名 ⑦60名 ⑧45名	①模試分析検討会等4回 ②職員入権研修1ジェンダーフリー65名、睡眠について68名 ③本校の業務改善 2回52名 ④救急法講習会43名 ⑤「ベテラン教員による講話」65人 ⑥学年別入権研修2・3月実施予定 ⑦入権研修総括3月実施予定 ⑧授業力向上研修45名	A	研修に対する教員の評価(肯定的意見)	95.50%	90%以上	93%	模試分析検討会等は、単に分析結果に対するコメントを聞くだけでなく、各教科で大学入試過去問を分析するなどの要望が出ており、内容を検討する時期にきている。業務改善で意見交換を行う研修・睡眠に関する研修・ベテラン教員による講話は非常に評価が高く満足度は100%であった。	A	継続	A	進路指導の研究や初任者への指導体制、授業改善のシステムが整備されており、研修への参加人数も高い水準を維持している。こうした取組みが教員力向上につながっていると評価できる。
			⑪ ・初任者の指導力向上	継続	初任者の指導力向上のための取組み	初任者ミーティング実施回数	12回	10回	12回	①各分掌主担者オリエンテーション ②首席講話 ③授業相互見学 ④⑤⑥進路部長・GL部長・ミドルリーダー・教頭からの講話 ⑦学校説明会参加8初任者によるプレゼンテーション・2年次教員からの講話⑧養護教諭講話・SC講話 ⑨初任者研究授業及び研究協議⑩入権主担講話・初任者によるプレゼンテーションとディスカッション ⑪初任者による1年間の振り返り	A	初任者ミーティングに対するアンケートや感想による教員の評価(肯定的意見)	100%	90%以上	100%	初任者ミーティングの実施も15年に及び、毎年改善を重ねてきたノウハウを以て、初任者に必要な内容を精選し講話、意見交換、発表の場が設けられている。経験の浅い教員が自由に発言できる雰囲気があり、ミドルリーダーやベテラン教員と多くの交流する時間もあることから満足度が100%となっている。	A	継続		
			⑫ ・教科指導力向上 ・教材開発	継続	①研究授業及び教員間の授業公開の実施 ②アクティブラーニングへの取組み	①実施回数 ②取組み教員数の割合	①22回 ②86%	①10回 ②80%	①21回 ②91%	①21回(国・社・数・物・体2回・音・英語4回・家9回・情) ②主体的対話的な授業を取り入れている教員の割合が5ポイント上昇した。	A	授業力向上に関する学校教育自己診断の評価(肯定率)	93%	90%以上	91%	「ぶらっと見学」及び研究授業・研究協議の実施により、授業改善に対する意識が高まった。昨年より2ポイント減少したが、高止まりである。	A	継続		
	学校独自の取組	Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	①北河内探究活動交流会の開催 ②他校生参加可能な公開講座	①北河内探究活動交流会の他校生の参加人数 ②他校生参加可能な公開講座数と他校生の参加人数	①1回 本校以外から生徒17名 ②6回109	①10名 ②3回15名	①1回 本校以外から生徒31名 ②4回88名	①北河内探究活動交流会R8年1月31日 ②ロボットカー合同試走会・数学オリンピック講習(2回)、数学探究合宿	A	参加満足度(4段階)	①満足度3.6 ②満足度3.8	①満足度3.5 ②満足度3.5	①満足度3.8 ②満足度3.8	本校含む6校計102名が24本のポスター発表を実施した。見学者やアドバイザーを含めると参加総数は156名に達し、昨年度96名から大幅に規模を拡大して開催できた。参加生徒へのアンケート調査では、イベントへの満足度は4点満点で平均3.8点と極めて高かった。	A	継続	A	他校の生徒も参加できる交流会や公開講座の実施により地域での探究活動をリードしている。公開行事へのGLHS以外の教員の参加も増加しており、筑波大学附属駒場中・高等学校数学科との協働等の活動も指導力向上に貢献していると評価できる。
			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	①北河内探究活動交流会の開催 ②通年公開授業「探究チャレンジⅡ」の通年公開	①北河内探究活動交流会への他校教員の参加者数 ②通年公開授業「探究チャレンジⅡ」への来校回数と来校者数	①本校以外から教員8名 ②10回73名	①5名 ②3回10名	①本校以外から教員8名 ②10回86名 ③科学オリンピック講座・数学科教員合同研修会を含む	①北河内探究活動交流会R8年1月31日 ②「探究チャレンジⅡ」8回(うち1回は数学探究学習日と併催・49名)(77名)・科学系オリンピック講座の見学3回(9名)	A	参加満足度(4段階)	①満足度3.8 ②満足度3.9	①満足度3.5 ②満足度3.5	①満足度4.0 ②満足度4.0	通年の公開授業に加え、数学探究学習日や数学オリンピック講習等の公開行事を含めると、のべ86名の教員・教育関係者が来校し、昨年度の71名からさらに増加した。他府県からの申し込みやWeb サイト経由の見学も定着し、探究活動導入のモデルケースとして他校の高校にうまく活用されている。	A	継続		

府立四條畷高等学校

総合評価	国際交流をはじめとする多様な教育活動を積極的に推進し、生徒が多文化に直接触れながら国際的視野と課題解決力を育むことができている。教員の指導力向上に向けた研修が活発で、TTによる探究指導など、教員の育成にも効果的な仕組みがあり、業務改善や学校運営の質向上に向けて能動的に動ける組織風土が醸成されている。	A
------	--	---

自己評価の基準	A・・・計画以上	評価審議会 評価の基準	AAA ……きわめて高い成果をあげている
	B・・・おおむね計画通り		AA ……高い成果をあげている
	C・・・計画以下		A ……成果をあげている
			B ……取り組んでいるが工夫改善の余地がある
			C ……取組の見直しが必要である

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	①学習方法の定着 読解力リテラシー	継続	①1年生学習合宿 ②自習室（火曜以外の平日の夜8時まで）の開放	①参加生徒数 ②自習室の年間開放日数	①360名 ②88日	①360名 ②90日	①359名 ②94日	①4/22～4/24の2泊3日で実施。国語 数学英語の学習、進路HR、仲間づくり等を実施 ②定時退庁日の火曜日以外、20時まで視聴覚室・図書館等を開放。	A	①高校での学習方法が学べた等、有意義と回答した生徒の割合 ②自習室の1日当たりの平均利用人数	①100% ②63人	①95% ②60人	①97.7% ②57.4人	①年度当初の実施により、学習への姿勢が身に付くと共に仲間づくりの絶好の機会となった。 ②目標をやや下回ったものの、コンスタントに生徒が活用しており、様々な事情で家庭で学習できない生徒のセーフティネットとしての重要な機能を果たした。	A	継続	「自由と創造」の校風のもと、生徒の学びに向け教科指導だけでなく、課題研究に様々な工夫をしていることは評価できる。また、外国語運用能力向上に向けた取組みが充実しており、生徒の学力向上に向けた取組みが体系化されていることは評価できる。	A
			②言語・ICT活用力	継続	①校内課題研究発表会 ②校内課題研究発表会、課題研究（LCⅢ）論文の作成	①参加生徒数 ②課題研究（LCⅢ）の論文数	①708名 ②122本	①700人 ②100本	①722名 ②109本	①令和8年1月30日に校内で実施し、2年生生徒全員が発表を行った。1年生が発表を見学することで、次年度の研究への引継ぎやイメージの明確化ができた。 ②HPに論文を掲載し、下級生だけでなく学外からも閲覧できるようにした。	A	課題研究の取組みが充実していたと回答した生徒の割合	81%	80%	84%	①教員間のノウハウ引継ぎなどをしやすくしているほか、外部機関とも連携を深め、専門家からのアドバイスを受ける体制を構築。すべての班で口頭発表を行い、論文作成に繋げられるレベルに到達させた。 ②3年間を通して研究を体験し、論文を完成させるまでのプロセスを身につけることができた。	A	継続		
			③英語運用能力	充実	①英語コミュニケーション講座（KITEC） 【1年生全員および発展コース（1・2年生希望者）】 ②海外研修 ③国際交流センター留学生との交流	参加生徒数	①基礎コース343名、発展コース56名 ②本校独自19名、GLHS合同3名 ③35名	①1、2年400人 ②15人 ③20人	①1年基礎コース350名、1・2年発展コース55名 ②本校独自22名、GLHS合同3名 ③本校から36名	①基礎講座は1年生全員参加。発展コースは1・2年の希望者が参加 ②本校独自でカナダ、GLHS合同で7人かへ行き、リーダーとしての資質向上 ③府下から3校40名が参加し、20回実施	A	それぞれの取組みを通して、英語等に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合	①基礎93.4%、発展97.9% ②本校独自100% GLHS100% ③100%	①基礎94.6% 発展97.8% ②本校独自100% GLHS100% ③100%	①いずれのコースもSDGsをテーマに適度な難易度に設定し、満足度は90%を超えた。 ②各研修とも、自ら英語を積極的に用いて何かを学び取ろうという姿勢が見られた。全校集会でも英語で発表し、得たことを他の生徒に還元した。 ③GLHSは肯定的な意見が100%となった。本校以外からも生徒が参加し、地域貢献できている。3月に廉価な国内語学研修も実施し、本校から12名、他校から8名が参加し、100%の満足度を得た。	A	継続			
	Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	④健康・体力、協調性	継続	三部会（生徒・教員・自治会）が主体となった記念祭（文化祭・体育祭）の実施	三部会および記念祭各委員会の生徒構成員の延べ人数	308人	300人	308人	記念祭関連で計11委員会を設置し、それぞれに各クラスから1名参加。自治会執行部も運営に携わり、教職員と生徒で運営を行った。	A	記念祭に満足したと回答した生徒・保護者の割合（「分からない」を除く）	生徒97.1% 保護者91%	生徒・保護者95%	生徒95% 保護者97%	体育祭、文化祭それぞれの実施直後に、記念祭実行委員会が生徒向けアンケートをとり、実施形態や内容について精査してよりよい行事になるように取り組んでいる。	A	継続	高津キャラバン隊や支援学校との交流により、校外との接点づくりに積極的に取り組んでいることは評価できる。	AA
			⑤違いを認め共に生きる力、共感性、協調性	継続	①高津キャラバン隊（ボランティア活動） （生活指導部） ②支援学校との交流	①参加クラブ数 ②参加生徒数	①全クラブ ②30名	①全クラブ ②生徒自治会・クラブ3団体	①33クラブ ②自治会・クラブ3団体34名	①生徒による社会体験・貢献活動を実施。年度内に全クラブが実施予定。 ②自治会・吹奏楽部・剣道部・空手道部が参加し、対面で双方向の交流を実施。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①100% ②100%	①95% ②95%	①100% ②100%	①活動を通じて生徒が社会貢献活動の大切さを実感できている。 ②参加クラブも増え、より充実した内容で支援学校生徒と交流を実施できている。	A	継続		
	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑥高い志	継続	①大学等外部団体の公開講座・実習等への参加 ②外国の高校等との交流・発表 ③国内（九州）サイエンスツアー	①参加生徒数 ②参加生徒数、実施日数 ③参加生徒数	①2004名 ②のべ131名参加、計3日 ③21名	①1,800人 ②100名、3日 ③15名	①1922名 ②のべ154名参加、計5日 ③35名参加	①1・2年生が、各自の興味関心に基づき参加し、自身の見聞を広げる機会となっている。 ②オンライン交流会は、台湾2校、韓国1校、フィリピン1校と本校との5校で約150名規模で実施。新たにフィリピンと本校で月1回の交流（IMU）を実施するほか、海外の学生招へいも積極的に実施。 ③12/24～12/26に35名で実施。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①96.2% ②環境フォーラム95.3%、オンライン交流会95.2% ③100%	①95.5% ②環境フォーラム95.3%、オンライン交流会100% ③91.4%	①生徒の興味関心を高め、視野を拡大するきっかけとなっている。 ②各事業で海外の生徒と英語で交流し、他文化に触れることで相互理解を深められており、将来グローバルに活躍する素地を養う場となっている。 ③天候の関係で行程に変更が生じて種子島には行くことができず、満足度がやや低くなったが、それらにも対応することで課題解決能力を養えた。また、研究の内容に興味を持てたかという問には「興味を持った」と回答した生徒が100%であった。	A	継続	高い志を育むそれぞれの取組みにおいて高い実績を維持しており評価できる。また、体験型進路学習や土曜講習の実施など、進路実現に向けた取組みが充実している。	A	
			⑦進路実現	継続	①土曜講習（オンライン講習を含む）の実施 ②体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実	①実施日数 ②職場、大学研究室の訪問先数	①1年17回 2年18回 3年21回 ②職場63カ所、研究室50カ所	①各学年15日以上 ②職場63カ所、研究室50カ所	①1年18回 2年15回 3年17回 ②職場63カ所 研究室48カ所	①1年生は全員参加、2・3年生は希望参加。年間計画を立て、組織的に実施。 ②1年職場訪問は、各班毎に「働くとは」のテーマでプレゼンテーションを実施。2年研究室訪問はポスターセッションを実施。	A	それぞれの取組みが有意義だったと回答した生徒の割合	①1年80% 2年82% 3年91% ②1年97.8% 2年96.6%	①1年92% 2年80% 3年82% ②1年99.7% 2年92.6%	①土曜講習は年間スケジュールに基づき実施。 ②1年職場訪問では「働くとは」について答えを出し、自らの進路実現を考える契機となっている。2年生研究室訪問は教授からの課題への回答を作成し、教授とのディスカッションを行った。漠然とした学部へのイメージがより鮮明になり、進路選択の一助となっている。	A	継続			
	Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑧授業指導力向上	継続	研究授業・研究協議、授業参観の実施	各取組みの実施回数	研究授業12回 研究協議12回 授業参観143回	研究授業10回 研究協議10回 授業参観130回	研究授業11回 研究協議11回 授業参観142回（自由見学週間は含まず）	初任者、10年経験者等にかかる研究授業、研究協議を6月に実施し、10月にも実施。LC（課題研究）にかかる研究授業・研究協議を10/22に実施。それ以外にも、10月～11月に授業自由見学週間を設定し活性化を図った。	A	本校の授業は、知的好奇心を抱きやすいなど、内容が濃いと回答した生徒の割合	88%	85%	88%	初任者・ミドルリーダー層の教員が公開授業を実施したほか、今年度から自由見学週間を設定し、授業改善に向けた交流を積極的に行うことができた。 また、今年度は「GLHS対象しジェンダー教員による公開授業」を実施して、他のGLHS校から20名の参加があり、GLHS間の授業交流の活性化に繋げることができた。	A	継続	今年度から新たにGLHS対象の公開授業等を行って授業指導力向上の取組みを活性化させている。研修や教材開発も着実に実施し、高い実績につながっていると評価できる。	A
			⑨進路指導力向上	継続	民間教育産業と連携した進路指導研修	研修回数 研修参加教員数	12回 180人参加	15回 200人	13回 190人参加	高津スクールマップに基づき、外部講師を活用しながら、適切な時期に研修を実施。研修で得た情報を踏まえ、進路指導や授業・講習の改善を図っている。	A	本校の教職員は生徒の進路実現に向けて積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合	93%	85%	95%	高津進路プログラム(KSPI)に基づき、学年に応じた的確なタイミングで学年集会等を開催し、「進路実現とは？」を意識させている。	A	継続		
			⑩教材開発、授業効果の向上	継続	①補助教材（オリジナル）の工夫 ②シラバス到達目標のブラッシュアップ	①補助教材にさらに工夫を凝らした教員の割合 ②実施教科数	①100% ②全教科	①100% ②全教科	①100% ②全教科	LGHアドバンスクラスのモデル校としてICTをより活用した教材の工夫に取組むほか、探究活動の資料も多くの教員が関わりながら改良を重ねている。また、Classroomを有効活用し、効果的な課題配付や反復学習を実施。	A	①生徒授業アンケート質問5（教科書その他、プリントや視聴覚教材等をうまく使っている）に対する評価 ②生徒授業アンケート質問9（授業を受けて知識や技能が身についた）に対する評価	①3.5 ②3.49	①3.4 ②3.4	①3.5 ②3.46	LGH等による環境整備により、ICTを効果的に用いて授業する教員が増加。探究での論文作成、調べ学習、HWや反転学習のためClassroom利用等により、1人1台端末の活用が進んでいる。	A	継続		
	Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する		⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	国際交流センターでの留学生との交流（GULS）	国際交流センターでの留学生との交流（GULS）および参加生徒数	9校 48名	4校 35人	3校 40名	国際交流センターによる自走化が進み、本校以外に大手前高校、阿倍野高校から参加。地域貢献に寄与できている。	A	参加満足度（4段階）	3.8	3.5	3.8	参加校、希望者数が広域化&増加傾向にある。令和8年度は本校を会場として実施する予定で、実施方法について国際交流センターと定期的に協議しており、生徒たちがより参加しやすく、学びの多い取組みになるように常にブラッシュアップを試みている。	A	継続	幅広く他校の生徒が留学生との交流に参加し、地域へのグローバル教育推進の核となっている。探究活動も地域とグローバルの両面で行われており、幅広い発信が評価できる。	A
			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	①WEBページに「これから探究活動を進める学校へ」として資料等を公開。 ②「台湾サイエンスツアー」において、追手門学院大手前高校等と連携して生徒・教員を招聘	①WEBページに「これから探究活動を進める学校へ」として資料等を公開。 ②連携校からの参加人数	①令和6年度課題研究にかかわるHP閲覧回数25,139回 ②追手門学院大手前高校教員2名、生徒8名が参加	①充実 ②連携校から各5名	①課題研究にかかわるHP閲覧回数25,041回 ②追手門学院大手前高校教員2名、生徒5名が参加。事前研修には兵庫県立龍野高校より5名が参加。	①他校における「総合的な探究」への課題意識が高まる中、HPへのアクセス件数や他府県からの視察が増加。10/22高津サイエンスラボ研究会を実施し、LCの授業公開と研究協議で本校のこれまでの取組みを説明。高校だけでなく、中学からの参加もあり ②連携校と国内での複数回の事前研修踏まえて、「台湾サイエンスツアー」を12/24～27に実施。	A	参加満足度（4段階）	①4.0 ②4.0	3.5	①4.0 ②4.0	①10/22に実施の「高津サイエンスラボ研究会」において、他の高校や中学校教員と探究について意見交換および本校のノウハウをシェアした。実際に本校の探究資料を参考に探究を進めている学校とも協議を行っており、さらなるブラッシュアップをめざす。 ②国内で4回の事前学習を経て、台湾サイエンスツアーを実施。台湾の高校生と水質調査を共同で行い、英語での発表大会を実施。事前研修で得た内容を河川学会でも発表するなど、研究の深化と発表にも積極的に取り組んだ。	A	継続		

府立高津高等学校

事業目的	大項目		小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細		自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
												コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長に関して、1年から2年が大幅に改善するとともに、2年から3年ではプラスに転じたことは大いに評価できる。大学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合は目標を上回っており、評価できるものの、得点率80%以上の割合は、大きく落としている。学力の伸長がプラスに転じた学年が共通テストに臨むのに向け、要因の分析を行い、今後につなげていただきたい。	AAA	
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	86.4%	85%	87%	共通テストへは334名が出願。うち301名が6教科8科目受験。	A	継続				
			⑰大学入学共通テストの結果	6教科8科目受験者における得点率 8割以上の生徒の割合	31.9%	20%	11%	得点率8割以上は34名。共通テストの平均点が下がったため、昨年度に比べて8割以上の生徒が減少したと考える。	B	継続				
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合	80%	80%	84%	3年間の体系的かつ全校体制で行うプログラムを確立できており、基礎から論文作成まで充実した探究活動を行っている。	A	継続	課題研究活動に対する肯定的意見のパーセンテージがあがっており、学校として探究活動を確立できていることは大いに評価できる。一方で、コンクール・コンテスト等の成果につながらなかった要因を分析し、次年度につなげていただきたい。	B		
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	入選数	10本	10本	6本	大阪府学生科学賞・大阪府教育委員会賞(1)・佳作(1)、マイクロマウス関西地区大会特別賞(2)、Technovation Girls 2025文部科学大臣賞(1)、グローバルサイエンティストアワード夢の翼奨励賞(1)	B	継続				
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	22名	10名	17名	CEFR C1レベル1名、B2レベル（相当を含む）16名	A	継続	CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数が目標値を上回った。生徒がより高い英語運用能力を身につけられるよう、さらなる英語教育の推進に努めていただきたい。	—		
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	85人	80人	60人	SG大学（京都5人、大阪24人、北海道2人、名古屋1人、筑波1人、広島1人、岡山2人、慶應1人、早稲田1人） GSC大学（神戸22人）	B	継続	進学実績については、小項目㉑及び㉒において、目標値を下回った。その要因を分析し、次年度へつなげていっていただきたい。 海外大学については、ここ数年、連続して実績がある。下級生に海外での学びや生活について伝える機会を設けるなど、ロールモデルとして活躍いただきたい。	B		
			㉒進学実績	近畿圏難関国立大学（京大・阪大・神大）及び医学部医学科への現役・浪人合格者数	78人	80人	56人	京都5人、大阪24人、神戸22人、医学部医学科5人（広島、和歌山県立医科、三重、徳島、琉球）	B	継続				
			㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	183人	130人	135人	国立大80人、公立大55人	A	継続				
			㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	2人	1人	1人	韓国の高麗大学に進学	A	継続				
		総合評価				「自由と創造」の校風のもと、生徒の学びの充実に向け教科指導だけでなく学習合宿や体験型進路学習など、他校にない特色ある取組みを展開するとともに、課題研究に様々な工夫をしていることは評価できる。一方、大学進学実績では目標未達や志願先の変化などの状況を踏まえ、更なる飛躍を期待する。								A

令和7年度グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）評価シート1 府立天王寺高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている
	B・・・おおむね計画通り		AA・・・高い成果をあげている
	C・・・計画以下		A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である

資料2-7

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
																		コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	小項目（はぐくみたい力） ・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー	①自学自習の確立	継続	桃陰セミナーの実施及び部学習の促進（勉強は学校でする自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー実施回数	21回実施	20回	24回実施	前期11回 後期13回	A	桃陰セミナー参加者の満足度 部学習のべ実施回数	桃陰セミナー満足度93.0% 部学習58回	桃陰セミナー満足度90%以上 部学習60回以上	桃陰セミナー満足度89.8% 部学習57回	・桃陰セミナー参加者数一日平均237.2人 ・部学習参加者数のべ930名（昨年比191名増加）	B	継続	自主学習の確立に向け、桃陰セミナーや自習室の開放など、組織的な取組を進めている。また、化学や英語、探究に関する自主教材を作成することにより、生徒の学力を高める取組みもっており、高く評価できる。	AA
				②基礎学力の充実・確立	継続	天高スタンダード（各学年で達成する学力基準）の見直し	天高スタンダード達成目標の見直し及び自主教材の作成。	①自主教材の作成と改訂 ②課題研究評価方法の教員研修	各教科より良き改訂をめざす	①化学・英語・創知ⅠⅡの教材改訂、国語は継続使用 ②探究活動評価方法の教員研修実施	②探究活動における運営・評価方法の教員研修を5回実施	A	天高スタンダード到達目標の達成率 課題研究評価方法の教員研修の実施	①100% ②100%	90%以上	①100% ②100%	①予定の各教科・科目で実施予定。 ②今年度は、5回の研修の集大成として1月30日に、本校OBで教育学者の市川伸一東大名誉教授の講演、狭山高校・夕陽丘高校の実践報告等、探究活動の評価にかかる研修会を実施	A	継続		
				③英語運用能力	継続	校内留学プログラム「Road to GL」の実施	校内留学プログラム「Road to GL」参加者数	1年生24名参加	30名以上（コロナ禍を経て修正）	1年生38名参加	7月29日（火）～8月1日（金）50分×5コマ×4日で実施。加えて9月12日（金）16：00～16：50ネイティブ講師を招聘し、事後研修を実施。	A	「Road to GL」参加者の満足度	100%	90%以上	100%	「非常に満足」「様々な国の人と積極的にコミュニケーションを取りたい」「またこのようなプログラムに参加したいと思う」の肯定的回答100%	A	継続		
		Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性	④人権意識、共感性の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 人権講演会及び人権HRの実施	人権講演会及び人権HRの実施	計画通り9回実施	計画通りの実施	9回実施	1年：ネット社会と人権/いじめ・弱者問題/障がい者理解 2年：社会の中の人権/LGBTと人権/戦争（イラクの子どもを救う会）3年：国際社会と人権/雇用と人権/3年間のまとめ	A	講演会ごとの生徒アンケートによる満足度	94.8%	90%以上	95.6%	*講演会毎の生徒アンケートによる満足度95.6%【R6:94.8%】	A	継続	生徒の学力向上に向けた取組みのみならず、人権講演会の実施や伝統芸能の鑑賞会等、人権意識や感性の育成に向けた取組みを実施するなど、全人教育を実施している。	AA
				⑤健康と体力と協調性を育む	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 林間学校、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走大会の実施	林間学校、水泳訓練、水泳大会、金剛登山、徒歩訓練、長距離走大会の実施	計画通り実施	計画通りの実施	林間学校、水泳訓練、水泳大会を計画通り実施	水泳訓練（7月） 林間学校（7月） 水泳大会（8月） 長距離走大会（1月） 金剛登山（2月） 徒歩訓練（2月）	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	96.9%	90%以上	97.0%	水泳訓練97.5%【R6:97.2%】 林間学校96.4%【R6:96.6%】	A	継続		
				⑥日本古来の伝統に触れる（感性の育成）	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 文楽鑑賞及び能楽鑑賞の実施	文楽鑑賞及び能楽鑑賞の実施	計画通り実施	計画通りの実施	計画通り実施	1年：能楽鑑賞会1/22実施 ・1/15講師を招き事前学習会を実施 2年：文楽鑑賞会1/23実施	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	98.50%	90%以上	97.80%	事業終了後、生徒アンケートを実施	A	継続		
		Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成	継続	学校遅刻者の指導	学校遅刻者総のべ人数 ※起立性調節障害等の生徒は除く	2111件	2000人以内	1671件	1年生284件、2年生729件、3年生658件。	A	部活動への加入率	90.1%	90%以上	91.0%	運動部761名 文化部系449名	A	継続	天高育成プログラムを軸に、生徒の高い志を育成する取組みが体系的に設定されている。また、天高アカデミアにおいては、各界の著名人を招聘し、本物に触れる良い機会の一つとなっており、大変評価できる。	AA
				⑧高い志の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 京都大学研修会、社会人講演会、学部学科説明会、天高アカデミア等の実施	京都大学研修会、社会人講演会、学部学科説明会、天高アカデミアの実施回数	14回実施	天高アカデミア12回以上	天高アカデミア13回実施	①将棋とPythonの出会い②半導体の基礎とエネルギー変換素子③教育投資の経済学④細胞社会学・わからないことだらけの「細胞死」⑤小犬体探査ローハでできること⑥生物が光る？目で見えない通信子の機能を光で観察しよう⑦食食同源・食品中の新たな機能性成分は情報化社会を先導する無機材料を知るとおもしろい、光の正体⑧応用数学、オペレーション・リサーチ⑨エネルギーに正解はあるのか⑩文章表現という観点から見た生成AI時代における高等教育での学び方⑪子育て世代数学者の研究生活	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	全平均97.4%	90%以上	全平均95.6%	天高アカデミア満足度99% 京大研修会：95.5% 社会人講演会：91.3% 学部学科説明会96.7%	A	継続		
				⑨海外研修等の実施	継続	海外研修(米)及び国内研修(福島)の実施 海外セミナー(台湾)の実施 海外(豪・フィンランド)の学校との交流の実施	①海外研修及び国内研修の実施 ②海外セミナーの実施 ③海外の学校との交流(オンライン含む)の実施	全て計画通り実施	計画通りの実施	オンライン交流を除き、計画通り実施	①-1GLHS10校合同海外研修（サンフランシスコ）実施 ①-2GLHS10校合同国内研修（東京・福島） ②-111月10日～13日台北第一女子高級中學訪問 ②-23月8日～10日台北第一女子高級中學・桃園市立武陵高級中學訪問 ③海外高校本校訪問受け入れ（5月20日高雄市立中正高級中學・9月15日～20日オーストラリア・ホーランドパーク高校）	A	行事ごとの生徒アンケートによる満足度	①100% ②100% ③100%	90%以上	①-1100% ②-1100% ③100%	①-1 例年同様事前研修→本研修→事後研修を経て、2月14日GLHS合同発表会で成果報告。 ②-1 Taipei International Youth Science Forumでアジア各国の高校生と交流。 ③生徒国際交流委員会を中心に交流。その後、海外研修に積極的に参加する生徒も現れる。	A	継続		
	Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発	⑩研究授業の実施／教員相互の授業見学実施	継続	研究授業の実施 他の教員の授業見学の実施 授業公開週間の設定	①研究授業の回数 ②教員1人当たりの授業見学回数	①57回 ②10.6回	①20回 ②5回	①106回 ②10.5回	①学校全体の研究公開授業を2回実施。（9/16、11/7）他校等から52名が参加。その他、4回研究公開講座を実施。	A	生徒授業アンケートによる全体平均（4点満点中）	3.59	3.50以上	3.6	第1回（7月）3.58 2回（12月）3.62	第A	継続	研究授業の回数が顕著に増加しており、教科指導法向上の研修会への参加人数も昨年度より増えている。教員指導力向上の取組みが確立しており、授業アンケート等の実績にもつながっていると高く評価できる。	AA	
			⑪教科指導研修会の実施	継続	外部講師による教科指導法向上の講座の実施	外部講師による教科指導法講座の参加人数	8月29日に研修会実施	30名	7月31日実施	駿台予備校にて、全体会後に、国語・数学・英語・地歴公民・理科（物理・化学・生物・地学）・看護教諭に分かれて分科会を実施。114名が参加。	A	生徒による学校教育自己診断アンケート（授業や教材、教え方）の肯定的評価	94.2%	90%以上	92.7%	*内容が分かりやすく満足できる授業が多い90.4% *教材や教え方にさまざまな工夫をしてくれる先生が多い94.9%	A	継続			
			⑫新採用や経験の少ない教員対象の研修会の実施	継続	桃陰塾（首席等ミドルリーダーを講師とした研修会）の実施	桃陰塾の実施回数	12回実施	10回	12回実施	首席が主催。全般(4月)/教務(4月)/伝統行事(5月)/企画渉外(6月)/進路(6月)/林間下見(6月)/GL・SSH(7月)/生徒指導(8月)/進路(11月)/進路(1月)/保健(11月)/本校の使命(3月)	A	参加教員の満足度	100%	90%以上	100%	新任・転任教諭を対象に、講義型・参加型で実施。「天高育成プログラム」に込められた意義や思い（魂）を新転任者に周知徹底し、天高の教員に育成。	A	継続			
	Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する		⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	①研究部会議への参加を広く呼びかける ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける ③天高アカデミアへの参加を呼びかける	①研究部会議へのGLHS以外からの参加生徒数 ②校内課題研究発表会へのGLHS以外からの参加生徒数 ③天高アカデミアへのGLHS以外からの参加生徒数	①6校40名 ②39名 ③40名	合計5校30名以上	①10校56名 ②37名 ③60名	①第1回(5/10) 中学校1校、高校1校、14名。 第2回(12/21) 中学校2校、高校6校、42名 ②10/18福島県立安積高校37名 ③6/13 東京都立戸山高校60名	A	GLHS校以外の参加生徒の満足度	①100% ②79名 ③100%	90%以上	①100% ②56名	①第2回での博士人材による講演「高校生の課題研究のすばらしさ、発表（口頭/ポスター）において気を付けていること」は、探究活動に課題意識をもつGLHS以外の生徒にとっても、分かりやすく有意義な内容となった。	A	継続	様々な教育活動を実施し、GLHSの高度な取組みを幅広く普及させている。大阪府全体の生徒・教員の資質向上に貢献していると大変評価できる。	AA	
			⑭GLHS校以外の教員の指導力向上	継続	①校内教員研修会への参加を近隣校に呼びかける ②校内課題研究発表会への参加を呼びかける	①校内教員研修会へのGLHS以外からの参加教員数 ②校内課題研究発表会へのGLHS以外からの参加教員数	①24校31名 ②9校18名	合計5校15名以上	①8校27名 ②5校8名	①「探究活動における運営・評価方法等の研修」を5回実施のべ8校16名＋教育庁11名 1/30に研修実施予定。 ②創知Ⅱティベート決勝（7/18）5校6名＋教育庁1名（＋日経新聞記者1名）	A	GLHS校以外の参加教員満足度	①100% ②49名	90%以上	①100% ②35名	①GLHS校以外からの参加者促進に向け、1/30に普通科＋専門学科の夕陽丘高校、新たに普通科再編となる狭山高校の実践事例のプレゼンを交えた研修会を企画。現時点でGLHS以外の11校、15名、府教委等5名の応募者あり。	A	継続			

府立天王寺高等学校

事業目的	大項目		小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細		自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
												コメント	評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	共通の取組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							A	継続	学力調査における学力の伸長に関して、昨年度、1年から2年が落ち込んだところから、令和6年度並みに戻せている。この1年の取組みが形になったのではないかと。大学共通テストについては、6教科8科目の受験者の割合は高い水準を保っている。得点率については、前年度実績には及ばなかったものの、目標値はしっかりクリアできており、十分に評価できる。	AAA
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	97.7%	95%以上	95.8%	受験339/在籍354	A	継続					
			⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト 全国平均に対する得点率 《3科目（国数英）平均》	139.1%	130%以上	137.4%	153.8点（国数英200点満点平均） 111.9点（全国平均）	A	継続					
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	ループリック評価の導入	すべての分野で実施	改善及び校内研究発表における活用	すべての分野で実施	本校のグランドデザインの一つ「探究でどのような力をいかに育てるか」をさらにブラッシュアップ。探究活動にかかる評価方法等の研修を6回実施。	A	継続	A	継続	ループリック評価については、校内での活用が進んでいると見受けられる。次の段階として、校外への発信も検討いただきたい。また、コンクール・コンテスト等への参加数が多く、学校として推し進めていることがわかる。今後も継続して参加を促していただきたい。	AAA	
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	全国規模のコンクール・コンテスト等の ①受験者数 ②入賞者数	①464名 ②4名	①350名 ②20名	①442名 ②3名	①国際科学技術コンテスト（物理6、化学70、生物15、数学70、情報102、地理127、地学52） ②化学グランプリ銀賞1名・銅賞2名、情報オリ準決勝1名、数学オリJGMO本選1名	A	継続					
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	3年14名	CEFRB2以上 30名以上	46名	3年生 1年次B2以上相当12名→2年次B2以上相当46名	A	継続	入学後の生徒の英語運用能力を着実に伸ばしている。今後も英語教育の推進と質の向上に取組んでいただきたい。	—			
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	172名	150名以上	178名	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）への進学者数：153名	A	継続	進学実績について、目標に及ばない学校が多い中、着実に実績をあげており、非常に評価できる。引き続き、高い水準を保つことができるよう、取組みを分析する等し、教員の指導力の向上にも努めていただきたい。	AAA			
			㉒進学実績	国公立等医学部医学科進学者数（浪人生含む）	16名	20名以上	25名	現役7名 既卒18名	A	継続					
			㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	158名 （44.9%）	全体の45%以上	164名 （46.3%）		A	継続					
			㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	0名	受験者を出す	2名	メルボルン大学1名 淡江大学1名 今後に向け柳井正財団と連携し「柳井スカラースキャラバン」を12/27に開催。GLHS10校から生徒65名/保護者29名/教職員等9名参加。（天王寺68名参加）	A	継続					

総合評価	学力・感性・人間性を総合的に育成する全人教育を展開するとともに、他校の教員を招き指導力向上に向けた研修等を積極的に取り組むなど、府内教育の質的向上に大きく貢献しており高く評価できる。一方で、生徒によっては学業との両立が難しい場合があることが懸念される。伝統校としての強みを活かしつつ、今後とも他校のモデルとなることを期待する。	AAA
------	--	-----

自己評価の基準	A・・・計画以上
	B・・・おおむね計画通り
	C・・・計画以下
評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている
	AA・・・高い成果をあげている
	A・・・成果をあげている
	B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
	C・・・取組の見直しが必要である

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	①基礎学力の定着	継続	1 自学自習時間を増やす取組 2 進学講習の実施	1 (1)各学年 (2)1年11回 2年10回 3年14回	1(1)年2回以上実施 ②各学年5回以上	右欄参照	1 (1)各学年 年2回実施 (2)1年13回 2年13回 2 ・3年前期希望者講習 913名 ・3年後期希望者講習 831名 ・3年夏期講習 1504名	A	・各学年の自学自習時間 ・1年・2年の平日の自学自習時間1時間未満の割合	平日 ・1年前期 66分 後期 97分 ・2年前期 72分 後期 109分 ・3年前期 222分 後期 290分 平日1時間未満1年25%2年14% 休日 ・1年前期 150分 後期 170分 ・2年前期 150分 後期 171分 ・3年前期 420分 後期 454分	1(1) ・1、2年 90分 ・3年 180分 ・1時間未満 30%以下	右欄参照	平日1時間未満 1年20% 2年11% 休日 ・1年前期 125分 後期 145分 ・2年前期 121分 後期 171分 ・3年前期 356分 後期 487分	B	継続	TOEFL Juniorを活用した取組みについて、各学年で分析会をし、PDCAサイクルをまわす取組みは評価できる。一方で、学力向上の取組みについて、自学自習の時間を指標としている中、この向上に向けた取組みの充実について検討された。また、校外におけるプレゼンテーション発表者数は減少しており、今後工夫が求められる。	B	
				継続	プレゼンテーション能力の向上	・プレゼンテーション発表者数(校内・校外) ・ミラクルチャレンジや海外サイエンスツアーの研究発表	・校内延べ720名 ・校外延べ50名 ・中間発表満足度95%	右欄参照	・1、2年生は全員がプレゼンテーションを実施。 ・校外発表 123名 ・中間発表満足度 89.8%	B	・アンケートによる生徒の評価 ・情報収集能力およびプレゼンテーション能力の向上	・校内 ・校外 ・1・2年生全員、3年約60名 ・校外 228名 ・中間発表満足度95% 中間発表満足度90%以上	12月末時点 ・校内 ・1・2年生全員 3年68名 ・校外 123名 ・中間発表満足度 89.8%	右欄参照	・校内 ・1・2年生全員 3年68名 ・校外 123名 ・中間発表満足度 89.8%	A	継続			
				再編	1 TOEFL Juniorを利用 しての英語運用能力向上 2 語学研修の実施	1 運用能力をはかる目安として英検からTOEFL Juniorの活用に移行し、計画的にその向上を図る。 2 語学研修参加者数	1 TOEFL Junior全員受験 1年7月、2年1月実施 2 オーストラリア語学研修20名参加 校内短期留学参加者69名	1 TOEFL Junior受験後に、分析会を実施 2 語学研修参加者70名以上	右欄参照	1 1年 分析会を実施 2年 分析会を実施 2 オーストラリア語学研修参加者20名 校内短期留学参加者81名	A	1 2年時のTOEFL JuniorでCEFRのB2レベル検証 2 語学研修参加者満足度	1 TOEFL Junior 1年7月実施 44%の生徒が710点を 取得 2年1月実施 74%の生徒が710点を 取得 2 オーストラリア語学研修満足度 95% 校内短期留学 満足度100%	1 2年生の75%がTOEFL Junior 710点取得 2 語学研修参加者満足度95%	右欄参照	1 1年 5月実施 43%の生徒が710点を 取得 2年 2月実施 63%の生徒が710点を 取得 2 オーストラリア語学研修 満足度100% 校内短期留学 満足度95%	A	継続		
		Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④違いを認め共に生きる力	継続	異文化理解教育の推進	・海外スタディツアー、サイエンスツアーへの参加者数	12/25～28韓国泳装高校スタディツアー実施。 事前オンライン交流10/22、10/29、11/22に実施。事後韓国泳装高校生が1/22に32名来校、交流会実施。 サイエンスツアーはオーストラリアで実施	韓国泳装高校へのサイエンスツアー参加者20名	右欄参照	・ロータリークラブ主催国際交流事業参加。本校生徒1名ドイツへ3週間派遣、ドイツ生徒1名を3週間受け入れ授業参加、部活動体験、学校祭参加。 ・10/6タイと中学生39名来校。 ・1年生授業参加(午後)および放課後部活動体験を実施。 ・12/25～28韓国泳装高校スタディツアー-37名参加。 事前オンライン交流を10月27日、11月17日に実施。	A	・アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	・韓国泳装高校との交流会満足度 96% ・サイエンスツアー(オーストラリア)満足度 100%	参加者満足度90%以上	右欄参照	・韓国泳装高校との交流会参加者満足度100% ・オーストラリア語学研修満足度 100%	A	充実		
				継続	部活動・学校行事の活性化	・自治会による部代表者会議及びリーダー講習会実施による所属集団への貢献と自己目標追求の姿勢を涵養 ・学校行事に進んで参加する生徒の割合 ・府大会以上の大会出場部数を恒常的に確保	・部代表者会議6回実施 ・リーダー講習会参加者満足度95% ・体育祭満足度 98% ・文化祭満足度 99%	・部代表者会議6回開催 ・リーダー講習会参加者満足度95% ・体育祭・文化祭満足度95%	・部代表者会議5回開催 ・リーダー講習会を3月23日に実施 ・体育祭満足度 99% ・文化祭満足度 99%	A	・学校教育自己診断による生徒の評価(達成感、満足度) ・府大会以上の大会出場部数	・生徒満足度 85.3% ・専責部、書道部全国総合文化祭出展、陸上部インターハイ出場、全日本大会出場、水泳部インターハイ出場100m平泳ぎ8位入賞、男子バレーボール部・女子ソフトテニス部近畿大会出場 ・府大会以上の大会出場部々20以上	・学校教育自己診断による生徒の評価(達成感、満足度) 80%以上 ・府大会以上の大会出場部数延べ20部以上	右欄参照	・生徒満足度 87.2% ・全国総合文化祭 専責部・書道部出展 ・全国写真甲子園優秀賞 陸上部：全国H出場 男子800m全日本7位 女子100m水泳部：全国H出場 女子ソフトテニス部(団体)：近畿H出場 男子硬式テニス部：近畿公立大会出場(団体・個人) ダンス部：第17回全国高等学校ダンストリル冬季大会出場 ・府大会以上の大会出場部々20以上 ・第98回選抜高等学校野球大会 21世紀杯大阪府推薦校	右欄参照	部活に熱心で成果を出していることは高く評価できる。その部活で勝ち取った力を学力向上に転化させることが期待される。また、欠席回数について、前年度から改善が見られるものの、目標には達していないため引き続き継続した取組みが求められる。			
				継続	欠席・遅刻を減らす取組	・教員の協働による指導	・登校指導を3回実施 ・毎朝、校門での指導を実施	・登校指導年間4回実施 ・毎朝、校門での指導を実施	・登校指導を3回実施 ・毎朝、校門及び通学路での指導を実施	B	・欠席者数、遅刻者数	遅刻 1692回 欠席 6662回	遅刻 1642回 欠席 5290回	右欄参照	遅刻 1642回 欠席 5290回	B	継続			
	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦高い志を育む	継続	1 国公立大学へのキャンパスツアー 2 卒業生による講演会 3 リーダー講習会 4 振り返りの実施	1 キャンパスツアー参加者数 2 講演会の実施 3 リーダー講習会の参加者数 4 定期考査、学力テスト等で振り返りを実施	1 キャンパスツアー参加者大阪大学36名 京都大学36名 ・2年生全員対象に阪大見学会を実施(5月31日実施) ・1・2年大学オープンキャンパス参加率87.6% 2 直近の卒業生を5名程度招き、1年生2年生全生徒が参加(うち40名が難関大進路講演会にも参加) 3 外部講師を招き、部活動代表者全員を対象にリーダー講習会を3/24実施し、59名が参加。 4 すべての教科で振り返りから解き直しの徹底へと発展させた。100%	1 キャンパスツアー参加者京大、阪大とも50名 ・1・2年大学オープンキャンパス参加率80% 2 卒業生による講演会実施 3 リーダー講習会参加者数 4 定期考査や学力テスト、模試で振り返り実施率	右欄参照	1 キャンパスツアー参加者大阪大学16名 京都大学3名 ・学校独自の京都大学研究室訪問23名参加(9月30日実施) ・2年生全員対象に阪大見学会を実施(6月20日実施) ・1、2年大学オープンキャンパス参加率98% 2 4月26日に1年生希望者約200名に対し、直近の卒業生2名による講演会を実施。 卒業生2名を招き、3年生難関大ガイダンスを6月28日に実施し、80名の参加。 直近の卒業生を6名招き、3月23日に実施し、1・2年生全生徒が参加。 3 リーダー講習会3月23日に実施し、77名が参加。 4 すべての教科で振り返りから解き直しの徹底へと発展させた。	A	・アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	1 キャンパスツアー参加者満足度：京大96.8%、阪大91.7% 2 進路講演会3月24日に実施し、1年生2年生全生徒が参加(うち40名が難関大進路講演会にも参加) 自身の進路選択に向け、参考になったとの声、多数。 3 リーダー講習会3月24日に実施し、参加者満足度100% 4 すべての教科で解き直しについて指導した。100%	1 キャンパスツアー参加者京大、阪大ともに90%以上 2 卒業生講演会参加者満足度85% 3 リーダー講習会参加者満足度90% 4 振り返り 100%実施	右欄参照	1 キャンパスツアー参加者満足度：京大100%、阪大93.8% 京都大学研究室訪問参加者満足度：100% 2 直近の卒業生6名を招いた進路講演会を3月23日に実施し、1・2年生全生徒が参加した。参加者満足度95.1% 3 リーダー講習会を3月23日に実施し、参加者満足度100% 4 すべての教科で振り返りから解き直しの徹底へと発展させた。100%	A	充実	様々な大学見学会等やの卒業生の講演等、高い志を育む取組みを実施しており高く評価できる。今後は、卒業生のさらなる活用を検討してはいかか。		
			Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑧授業力の向上	継続	1 校内における研究授業の実施 2 授業の相互参観	1 研究授業の回数 2 相互参観の教員参加率	1 計26回実施 2 見学進路公開率100% 見学率138.5% (90名/65名)	1 各教科1回以上の実施 2 全教員による授業参観参加	1 計18回実施 2 見学進路公開率100% 第1回 見学151回/教員65名 第2回 見学160回/教員65名	A	・授業評価による授業理解度	第一回めー第二回め 1年：92.0%→91.4% 2年：92.0%→94.1% 3年：90.9%→90.1%	1年85%以上 2年90%以上 3年90%以上	すべての学年で目標達成	第1回めー第2回め 1年：89.2%→89.2% 2年：92.4%→93.4% 3年：93.8%→95.9%	A	継続	研究授業や授業参観の活発な実施と他府県等への視察等の取組みが授業力向上へつながり、授業評価の高い実績につながっていると評価できる。	A
					継続	民間教育産業等の研修への参加者数	79名	30名以上(教員数の約半分)	右欄参照	・仙台夏学研修9名参加 ・岡山県立岡山一宮高校視察7名 ・山口県立徳山高校視察3名 ・府立四條郡高校視察6名 ・府立天正寺高校視察3名 ・府立高津高校視察1名 ・府立茨木高校視察1名	A	・授業評価による授業理解度	第一回めー第二回め 1年：92.0%→91.4% 2年：92.0%→94.1% 3年：90.9%→90.1%	1年85%以上 2年90%以上 3年90%以上	すべての学年で目標達成	第1回めー第2回め 1年：89.2%→89.2% 2年：92.4%→93.4% 3年：93.8%→95.9%	A	継続		
	Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑩GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	・探究Ⅱポスター発表、成果発表会への参加 ・出前授業	・探究Ⅱポスター発表、成果発表会への参加人数 ・出前授業の実施件数	・48名 ・5件	・20名 ・5件	出前授業5件(依頼を含む)	A	参加満足度(4段階)	3.6	右欄参照	3.8	A	継続	小中学校への出前授業や探究における成果の共有等、GLHSの知見の地域への還元を行っており、評価できる。	A			
			継続	・探究Ⅱポスター発表と成果発表会、研究協議への参加 ・公開授業・研究協議への参加	・探究Ⅱポスター発表と成果発表会、研究協議への参加人数 ・公開授業・研究協議への参加人数	探究Ⅱ中間ポスター発表会参加者数 2名 探究成果発表会参加者 7名 探究Ⅱ公開授業の参加人数 66校1名参加 公開授業 参加者数 21名	20名	右欄参照	A	参加満足度(4段階)	3.6	右欄参照	4.0	A	継続					

府立生野高等学校

総合評価	近隣の小中学校への出前授業をはじめ、地域とのつながりや外部機関との協働など、地域連携の取り組みは評価でき、今後も成果が期待される。卒業生を活用したセミナー等を実施し、生徒の志を高める活動を積極的に行っている。部活動で培った粘り強さや目標達成力を学力向上にどのように転換していくかが今後課題である。	A
------	---	---

令和7年度グローバルリーダースハイスchool（GLHS）評価シート 1府立三国丘高等学校

自己評価の基準	A・・・計画以上	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている
	B・・・おおむね計画通り		AA・・・高い成果をあげている
	C・・・計画以下		A・・・成果をあげている
			B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
			C・・・取組の見直しが必要である

資料2-9

事業 目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価			
																		コメント	評価		
知識基盤 社会をリ ードする 人材の育 成	学校 独自の 取組	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る 小項目（はぐくみたい 力） ・言語活 力 ・ICT活 力 ・読解力 ・科学的 リテラシー ・英語運 用能力 ・その他	①基礎学力及び自学自習 力の向上	継続	①自習室開放 ②補充講習の実施（1・ 2年生）	・食堂や教室を自習室と して開放 ・実施回数（実施教科）	・19回 ・72回	・20回 ・90回	補充講習実施教科は、英・国・数	A	・1・2年生での自学自 習を2時間以上行う生徒の 割合 ・補充講習への出席率	・1年 49.3%、 2年 52.9% ・100%	・50%以 上 ・100%	・50.5% ・100%		A	継続	自立した生徒の育成を めざし、学習習慣の確 立に向けた取組みを組 織的に進めている点が 高く評価できる。ま た、課題研究における 大学・企業訪問や、校 内外での発表機会が充 実している。	AA		
			②読解カリテラシー育成	継続	③読書指導の充実 ④文章要約、文章能力の 育成	・読書案内の発行 ・読書記録による指導 （1・2年全員）	・6回 ・1年8 回、2年7 回提出	・年間5回 ・年間3回	・5回 ・1年8 回、2年7 回提出	A	・読書記録提出による自 主 読書量	・1年16 作品 2年9作品	・1・2年生 年間5作品 以上	・1年生 16作品、 2年生7 作品		A	継続				
			③科学的リテラシー、ICT 活用力及び課題解決能 力を育む	継続	⑤「課題研究(CSⅡ)」な どの充実 ⑥プレゼンテーション能 力の向上	・大学や企業の訪問回数 ・CS研究充実のための組 織活動 ・校内外での発表会 等でのプレゼン	・12回訪 問 ・毎週継続 実施 ・15回実 施	・10回 ・CS委員 会 ・毎週開催 実施 ・延べ10 回	・21回訪 問 ・毎週継続 実施 ・21回実 施	A	・「課題研究(CS探究)」 の延べ発表回数 ・実施後のアンケートや 感想	・172回 ・肯定的評 価92.5%	・口頭及び ポスター発 表100回以 上 ・肯定的感 想が80% 以上	・189回 ・肯定的評 価91%	・中絶発表73紙、SGH編学生交流会6紙、 SSH編学生交流会6紙、SSH在籍研究発表会 1回（物理） ・大阪サテライト第1期8紙、2期3紙、 SM1紙（NASA研修発表）、NKKI STEM育成2紙、生物研発表2紙、化学 研発表1紙、校CS成果発表1紙、WWL全 国高校生フォーラム1紙、高校生ビジネスフ ォラム1紙、SDGsクエストみらい甲子園1紙、 CS読研発表7紙、GLHS 各研究発表1紙、関西万博1紙、関西産業チ ャレンジフェス2紙、大阪府立生野高等学 校1紙、日本歯学会1紙、日本薬学会3紙	A	継続				
		Ⅱ. 豊かな感性と、たくま しく生きるための健康と体力を はぐくむ 小項目（はぐくみたい 力） ・違いを認め共に生きる 力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力	④英語運用能力の育成	継続	⑦4技能統合型授業の実施 ⑧英語の特別レッスン	・実施回数 ・受講人数	・1・2年 毎週実施 ・198人	・1・2年 毎週実施 ・80人	・1・2年 毎週実施 ・204人	A	・学校教育自己診結果や 感想 ・特別レッスン参加者数	・86.1% ・延べ198 人	・肯定的意 見80%以 上 ・延べ70 人	・85.5% ・204人	・NASA28人×3回、 SGH30人×2回、オース トラリア研修30人×2 回	A	継続	高い英語運用能力を育 む取組みや、海外研修 の実施及び海外からの 生徒受入れ機会が充実 しており、高い英語運 用能力を備えたグロー バル人材の育成に向け た取組が評価できる。	A		
			⑤違いを認め共に生きる 力の育成 （異文化・国際理解）	継続	⑨海外研修等の充実 ⑩海外生徒との交流や留 学生の受け入れ	・海外研修参加人数 ・交流・留学受け入れ人 数	・80人 ・172人	・80人 ・70人	・83人 ・112人	A	・アンケートや感想によ る生徒の評価 （肯定的な意見）	・肯定的評 価100%	・肯定的評 価90%以 上	・肯定的評 価100%		A	継続				
			⑥違いを認め共に生きる 力の育成 （ボランティア活動 ・地域交流活動）	継続	⑪地域ボランティア活動 への参加	・世代間交流の本校生徒 の参加人数 ・世代間交流の校外から の参加人数	・134人 ・420人	・50人 ・100人	・109人 ・182人	A	・アンケートや感想によ る生徒の評価 ・アンケートや感想によ る参加者の評価	・100% ・昨年並み	・肯定的感 想が80% 以上 ・肯定的感 想が80% 以上	・肯定的評 価100% ・昨年並み		A	継続				
		Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路 実現をめざす 小項目（はぐくみたい 力） ・規範意 識 ・高い志 ・その他	⑦健康・体力・協調性 と豊かな感性の育成	継続	⑫部活動の振興 ⑬学校行事の充実	・部活動加入促進 ・学校行事（文化祭、体 育祭、芸術祭、マラソン 大会）実施	・101.6% ・体育祭、 文化祭無事 故で実施	・95% ・内容充実 で実施	・103.6% ・体育祭、 文化祭無事 故で実施	A	・大阪府代表や近畿全国 大会への参加・出場件数 ・学校教育自己診断によ る生徒の評価	・6件 ・95.2%	・5件 ・肯定的評 価90%	・8件 ・95.7%	・物理チャレンジ1件、科学の甲 子園1件、模擬裁判選手権1件、 WWL全国高校生フォーラム1 件、第13回 高校生ビジネスフ ォラム・グランプリ近畿地区発表 会・2件、SDGsクエストみら い甲子園 関西地区ファイナルセ レモニー1件、全編文出演（キ ター部）1件	A	継続	進路指導において、進 路講演の講師の選定等 工夫するなどにより、 生徒の意欲を高めてい ることは評価できる。	AA		
			⑧高い志を育み進路実現 を果たす	継続	⑭社会で活躍する卒業生 を活用した講座「三丘セ ミナー」や各種研究講演 会の実施・充実 ⑮大学見学の実施 ⑯医療インターンシップ の実施	・講座（講演）の開催回 数 ・参加人数	・37回実 施 ・243人 ・30人	・25回 ・450人 ・50人	・41回実 施 ・288人 ・80人	A	・三丘セミナー13回、防衛研1回、スクールリーダースセ ミナー1回、卒業生交流会8回（3年2回、2年1回、分科自 3回、医学部1回、数研1回）、SSH7回（京都府立）、 SGH10回（フィリピン大学2回、ADB1回、インドラン大学 1回）、早稲田研発表1回 ・大阪公立大1人、大阪工業（看護）5人、医療EXPO5人、 国際会議2人、カリフォルニア研修2人、フィリピン23人、 めざせ大企業、オーストラリア30人、欧米研修13名、 SGH、前大産学部21人、阪大薬学16人、阪大ソナール102人、 7月分特別訪問手術進学生15人、耳眼企画44人、前大医学部 体験21人	A	・難関国公立大学（10大 学）への進学者数 （東大、京大、阪大、北大、東 大、名大、九大、神大、公大） ・医学部医科学進学者数 ・アンケートや感想によ る生徒の評価	・148人 （現役106 人） ・9人 ・肯定的評 価100%	・150人 （現役100 人）以上 ・10人以 上 ・肯定的意 見80%以 上	・202人 （現役143 人） ・7人（現 役4人） ・肯定的評 価100%	・東大2人（現役2）、京大 29人（17人）、阪大56人 （36人）、北大5人（4 人）、名大3人（3人）、九 大2人（2人）、神大25人 （19人）、公大80人（60 人） ・奈良県立医大1人（現役1 人、大阪公立2人（1人）、 和歌山医大2人（2人）、徳島 1人（0人）、愛知医大1 人（0人）			A	継続
			⑨規範意識の醸成	継続	⑰情報リテラシーの向上 ⑱朝のあいさつの奨励 ⑲リーダース研修の実施	・講演会の実施 ・教員による校門指導と 担任、教科担当の指導 ・年間12回の実施	・1回 ・校門指導 を日常的に 実施 ・12回の 実施	・1回 ・校門指導 を日常的に 実施 ・年間12 回の実施	・1回 ・校門指導 を日常的に 実施 ・12回の 実施	A	・スマホ講習会に関する アンケートや感想による 生徒の評価	・98.5%	・肯定的感 想や意見が 80%以上	・肯定的評 価98.8%		A	継続				
		Ⅳ. 教員の指導力向上をめざ す 小項目（はぐくみたい 力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑩授業力向上	継続	⑳授業改善に向けての取組み ①授業観戦によるフィードバック ②保護者への授業公開の実施 ③公開研究授業及び研究協議の実 施 ④校外で実施される研究授業や研 修	・全教員が改善シート提出 ・全員にフィードバック ・年間2回実施 ・年間1回実施 ・参加人数	・1回目全教員提出 ・授業観戦実施 ・2回実施 ・年間2回実施 （他校か ら29名参加） ・他校や予備校等に 27名参加	・全教員提出 ・全員フィードバック ・授業公開2 回、研究協議6 回実施 ・教育セン ター実施の研 修に参加3名 ・他校や予備 校等に33名参 加	・全員提出予定 ・全員フィードバック ・保護者向け公開（5月、10月） ・6月ペレラン1人、9月中旬2人、11月初 任者2人、1月ペレラン1名予定 ・教育センターで実施 ・予備校等で実施	A	・授業アンケートによる 授業満足度	・89.6%	・80%以 上	・91.0%		A	継続	授業改善や進路指導研 修等、学校全体で指導 力向上をめざす仕組 みの整備が、授業満足 度や進学実績にもつな がっており、評価でき る。	A		
			⑪進路指導力向上	継続	②新旧3年担任を中心と した進路指導研修の実施 ③各学年各専科模試実施後の 研修実施 ④共通テスト分析研修の 実施	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数	・3回実施 ・10回実 施 ・1回	・年間1回 ・年間5回 ・年間1回	・2回実施 ・10回実 施 ・1回実施	A	・難関国公立大学（10大 学）への進学者数 （東大、京大、阪大、北大、東 大、名大、九大、神大、公大） ・大学医学部医科学進学 者数	・148人 （現役106 人） ・9人	・150人 以上（現役 100人以上） ・10人以 上	・202人 （現役143 人） ・7人（現 役4人）	・東大2人（現役2）、京大29 人（17人）、阪大56人（36 人）、北大5人（4人）、名大3 人（3人）、九大2人（2人）、 神大25人（19人）、公大80人 （60人） ・奈良県立医大1人（現役1人、 大阪公立2人（1人）、和歌山医 大2人（2人）、徳島1人（0 人）、愛知医大1人（0人）	A	継続				
			⑫初任者・転入者に対す る指導力向上支援	継続	③校内研修の実施	・研修実施回数	・33回	・20回	・20回	A	・学校教育自己診断（教 職員）5「指導改善」	—	・肯定的評 価80%以 上	・92.9%		A	継続				
	⑬GLHS校以外の生徒 の資質向上		継続	④課題研究発表会の招待 ⑤課題研究、海外研修等 本校の特色ある取組に関 する説明会（中学生対象）	・課題研究発表会の招待 の回数 ・説明会の回数	・1回 ・2回	・年1回以 上 ・年1回以 上	・1回 ・2回	A	参加満足度（4段階）	・4.0 ・3.9	・3.5 ・3.5	・4.0 ・3.7	・招待2校（富田林、高 津）の生徒に実施 ・秋のみ実施	A	継続	課題研究において他校 との交流や中学生への 成果の共有が行われてお り、評価できる。			A	
	⑭GLHS校以外の教員 の指導力向上	継続	⑥研究発表会の公開 ⑦課題研究授業の公開 ⑧課題研究指導の研修、 情報交換会	・研究発表会公開の回数 ・課題研究授業の公開の 回数 ・課題研究指導の研修、 情報交換会の回数	・2回 ・1回 ・2回	・年1回以 上 ・年1回以 上 ・年1回以 上	・2回 ・1回 ・2回	A	参加満足度（4段階）	・3.7 ・4.0	・3.5 ・3.5	・3.5 ・3.7		A	継続						

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	①・学習習慣 ・学力向上	継続	土曜日午前中の講習実施日および土曜日・長期休業中の自習室開放の設定	①講習実施日 ②自習室開放日	①12日 ②60日	①12日 ②60日	①1年ハイレベル講習ほか、土曜日午前を活用し講習を実施した。 ②土曜日、長期休業中に8:30から16:30まで自習室を開放した。	B	(生徒向け) 学校教育自己診断における「土曜日を学習に活用」の肯定的評価	66.1%	70%以上	71.6%	学校教育自己診断「土曜日を学習に活用」の肯定的評価は71.6%となり、昨年度の66.1%から大きく数値を上昇することができた。	A	継続	課題研究発表会におけるポスター発表本数が増加したことは評価ができる一方で、アンケート結果が目標に届いておらず、今後工夫や改善が求められる。	B
				継続	課題研究の充実	2年文理課題研究発表会の実施	オール64本、ポスター88本	オール60本、ポスター85本以上	オール56本、ポスター発表105本	B	SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価	66.3%	65%以上	59.3%	SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価は59.3%であり、前年度から大きく値が下がり、目標を達成できなかった。	C	継続		
				継続	グローバルリーダー養成プログラム校内版、海外研修の実施	参加者数	122名	120名以上	96名	C	グローバルリーダー養成プログラム校内版受講者へのアンケートにおける肯定的評価	97.3%	95%以上	プログラム満足度100%	プログラム全体への満足度は100%（非常に満足77.7%、満足22.3%）であった。 なお、英語力についての成長実感や自分自身の変容なども95%を超えた。	A	継続		
		Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④・共感性 ・協調性 ・健康・体力	継続	①部活動の活性化 ②部活動員を対象とした研修の実施	①クラブ加入率 ②実施回数	①87.9% ②2回	①85%以上 ②2回	①84.5% ②2回	B	(生徒向け) 学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価	95.6%	90%以上	94.5%	学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価は94.5%であり、前年度からは微減した。	B	継続	地域の課題をテーマにした課題研究の本数は目標を上回っているものの、地域の幼稚園、小学校との交流については実施できなかった。一方、通学指導週間や生徒による朝の挨拶運動等については、生徒が安心して通学できる環境の整備に貢献しているため評価できる。	A
				継続	①幼稚園、小学校との交流 ②地域の課題をテーマとした課題研究	①実施回数 ②地域の公的機関やNPO等との連携した取組み	①2回 ②2か所	①2回 ②2か所以上	①0回 ②2か所	C	①これまで幼稚園との交流、小学生対象の子どもクッキングを実施してきたが、今年度は事情により実施不可能となった。 ②岸和田市役所、和歌山大学岸和田サテライトと連携。	①95% ②7本	①90%以上 ②5本以上	①ー ②6本	①今年度は事情により実施できなかった。 ②地域の課題をテーマとした研究本数は6本であった。	C	再編		
				継続	①全教員による「通学指導週間」の設定 ②生徒による朝の挨拶運動の実施	①実施回数 ②実施回数	①3回 ②10回	①3回（各学期1回） ②10回以上	①3回 ②10回	B	(生徒向け) 学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価	85.1%	80%以上	84.4%	学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価は84.4%であり、微減した。	B	継続		
		Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦・将来像の構想 ・興味・関心の高揚	継続	①卒業生による職業講話の実施 ②大学教授等の外部講師による出前講義	①実施回数 ②実施回数	①1回 ②3回	①1回 ②3回以上	①1回 ②3回	B	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	①91.5% ②91.3%	90%以上	①92.5% ②94.0%	①卒業生による「OB・OG講演会」の肯定的評価は92.5%であった。 ②「大学出張講義」の肯定的評価は94.0%であった。	A	継続	「岸高ハイレベル講習」や「岸高スーパークラス」の設置など、学力向上とともに、生徒の高い志の育成に向けた特色ある取組みを実施している。今後も工夫を重ねながら取組みの充実に努めてもらいたい。	B
				継続	①東京方面大学キャンパスツアーの実施 ②SSHサイエンスツアーの実施	①参加生徒数 ②参加生徒数	①5名 ②27名	①5名以上 ②20名以上	①5名 ②27名	A	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	①100% ②100%	95%以上	①100% ②100%	①②ともに、参加者全員が肯定的に評価している。	B	継続		
				継続	①「岸高ハイレベル講習」の実施 ②「岸高スーパークラス」の設置	①実施回数 ②生徒数	①12回 ②80名	①12回 ②80名	①12回 ②80名	B	①生徒アンケート「受講してよかった」「実力がついた」の肯定的評価 ②生徒アンケート「クラスに入ってよかった」「実力がついた」の肯定的評価	①72.9% ②72.9% ③96.9% ④90.7%	「受講してよかった」80%以上、「実力がついた」85%以上	①87.7% ②83.6% ③95.7% ④92.8%	①②ともに、多くの生徒が肯定的に評価している。特に「岸高ハイレベル講習」の評価は昨年度を大きく上回った。	A	継続		
		Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑩1人1台端末の活用	継続	1人1台端末の活用を推進する校内研修等の実施	実施回数	2回	2回以上（オンデマンド・事例集作成を含む）	2回	B	(生徒向け) 学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価	93.8%	90%以上	94.6%	学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価は94.6%であり、前年度からさらに値が上昇した。	A	継続	ハード面とソフト面の双方から授業改善にアプローチし、組織的に指導力向上を行っている点が評価できる。初任者に対する研修プログラムも確立し、きめ細やかな指導を行っている。	A
				継続	①研究授業を含めた授業力向上研修の実施 ②公開授業週間の設定	①実施回数 ②実施期間	①1回 ②各教科3週間×2回	①1回 ②各教科3週間以上	①1回 ②各教科3週間×2回	B	授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価	3.33	3.25以上	3.38	授業アンケートの項目8・9の肯定的評価の全教員平均は3.38となり、昨年度の数値を大きく上回った。	A	継続		
				継続	初任者と10年経験者の教員合同での校内研修の実施	実施回数	11回	11回以上	11回	B	参加教員へのアンケート「本研修で知識は広がりましたか」の肯定的評価	100%	100%	100%	参加者全員が肯定的に評価している。	B	継続		
		Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	①課題研究発表会への他校生徒の参加 ②その他、他校との交流を実施	①課題研究発表会に参加した他校の生徒数 ②その他、他校との交流回数	①高校2校6名、小学生5名、中学生2名 ②2回	①10名 ②2回	①多数 ②複数回	A	①参加生徒へのアンケート「参加してよかった」の肯定的評価	100%	95%以上	100%	参加者全員が肯定的に評価している。	B	継続	小中学生や他校の生徒を課題研究発表会に招いてポスター発表を実施する等、探究活動を通じ、地域に貢献している。他校との本格的な研究交流を行っている点も評価できる。	A
				継続	教員研修等の実施	教員研修等への参加学校数及び教員数	2校5名	4校8名以上	1校多数	B	参加教員へのアンケート「内容は満足いくものでしたか」の肯定的評価	100%	95%以上	100%	参加者全員が肯定的な評価であった。	B	再編		

府立岸和田高等学校

事業 目的	大項目		小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価			
											コメント	評価		
知識 基盤 社会を リード する人 材の育 成	共通 の取 組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長に関して、昨年度、1年から2年が大きく落ち込んだところから、令和6年度並みに戻している。2年から3年の経年推移の改善とあわせて、今後、より期待できる。 大学共通テストについては、6教科8科目の受験者は目標を大きく下回ったものの、全国平均×1.2以上の割合は昨年度並みを維持していると言え、評価できる。	B	
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	225名 71.0%	240名 75%以上	215名 68.9%	6教科8科目受験者は文系85名、理系130名、合計215名であり、目標値を大きく下回った。	C	継続				
			⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト5教科7科目の 全国平均×1.2以上得点した受験者の割合	文系 33.7% 理系 21.6%	30%以上	文系 33.0% 理系 19.4%	文系は全国平均595点の1.2倍714点以上の生徒は28名/85名で33.0%。 理系は全国平均605点の1.2倍726点以上の生徒は25名/129名で19.4%。	C	継続				
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学校教育自己診断「岸和田高校は、課題研究をはじめとする探究的な学習や、関連行事など特色ある教育活動が行われている。」の肯定的評価	95.5%	93%以上	95.0%	肯定的評価は95.0%であり、昨年度より微減したが、目標値を上回った。	A	継続	課題研究活動に対する肯定的意見が95%あることは大いに評価でき、探究活動をはじめとした教育活動が根付いていることがうかがえる。一方で、コンクール・コンテスト等の成果につながらなかった要因を分析し、生徒が存分に力を発揮できるようサポートいただきたい。	AA		
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	コンクール・コンテスト等（国際科学技術コンテスト、SSH生徒研究発表会、高校生国際シンポジウム、大阪府学生科学賞、大阪府生徒研究発表会等）の参加者人数	のべ85名	75名以上	のべ69名	・国際科学技術コンテスト10名 ・SSH生徒研究発表会1名 ・大阪府学生科学賞4テーマ12名 ・大阪府生徒研究発表会1部14名 ・坊っちゃん論文科学賞4名 ほか	C	継続				
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	3名	5名以上	4名	C1：1名、B2：3名	B		CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数は昨年度よりも増加している。英語運用能力を高める取組みをさらに推進してもらいたい。	—		
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	28名	30名以上	22名	東北大学1名、大阪大学11名、神戸大学8名、早稲田大学1名、慶応義塾大学1名	C		進学実績について、目標には及ばなかったものの、十分に評価できる値である。ただ、自己評価は「C」としており、次年度、実績につなげられるよう、要因の分析を行い、飛躍に努めていただきたい。	A		
			㉒進学実績	国公立大学&主要私大（早稲田・慶応・上智・東京理科大・MARCH・関関同立・同女・薬学部・歯学部・医学部）現役進学者数	224名	220名以上	215名	下記の国公立大学に加え、私立大学では早稲田大1名、慶応義塾大1名、同志社大8名、立命館大5名、関西大44名、関西学院8名など	C					
			㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	139名	135名以上	128名	大阪大7名、神戸大6名、大阪教育大15名、奈良女子大1名、和歌山大44名、大阪公立大34名、和歌山県立医大3名など	C					
			㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名	1名以上	0名		C					
		総合評価				縦割り型課題研究、スーパークラス、ハイレベル講習など特色ある取組みは、GL校のみならず様々な学校でも参考になる独自の取組みであり評価できる。また、学校生活への満足度が大きく改善しており、生徒が安心して学習できる環境が整っている。今後、これまでの特色ある取組みを活かしつつ、入学時の学力層の変化に対応する次の一手を期待したい。								A